

2026年度 学校要覧

2026 COLLEGE BULLETIN



Tokyo Metropolitan College of Industrial Technology
東京都立産業技術高等専門学校

Slogan

未来をつくる人をつくる。

Statement

高速で進化を続ける産業技術が、
未来を切り拓く若い力を求めています。
都立産技高専は、次代のエンジニアを育成するカレッジ。
5年間で、高度な専門知識と技術力、豊かな創造力、
世界で活躍できるコミュニケーション力を育みます。
ここからの進学・就職は、未来をつくる夢への一歩。
一人ひとりに、大きな可能性が用意されています。

Symbol Mark



ダイナミックT

シンボルマーク(ダイナミックT)は本校の新しいスローガン「未来をつくる人をつくる。」の制定と同時に、次代のエンジニアを育成するカレッジである本校をシンボライズするものとして作成されました。

左側は東京(Tokyo)と技術(Technology)の頭文字のTをモチーフにして、未来に向けた本校のダイナミックな活動や成長とともに、ここに勇躍してくる若者の才能と活力、未来への可能性を象徴しています。また、右側の弾け飛ぶ球、三角、四角などの形態は、ここから生み出される斬新なアイデアやそれによりもたらされる豊かな生活の広がりを表現しています。



校章の由来

工業の代名詞でもある「歯車」をモチーフにし、産業技術高等専門学校が二つのキャンパスから成り立ち、二つの組み合わせで更に大きな力を発揮することを表しています。また、2個の歯車は、ローマ字のSを表しており、「産業技術高等専門学校」の頭文字となっています。

東京都立 産業技術高等専門学校校歌

作詞 本川 禧子
作曲 原田 和則

一、
光さすビルの谷間は目覚め

若い命の叡智をあつめ

優しさ 力と 知恵あわせ

先端技術の華咲く首都東京

われらが担う創造は

平和と福祉に役立つ産業技術

二、
高まる地球の熱気をも超え

われら 燃える夢を託し

大地を 海を 空を越え

ものづくりへ 導く東京工学

宇宙を結ぶ開発の

革新・発展・誘う産業技術

目次

校長あいさつ	1	ロボット工学コース	17
高等専門学校（高専）とは	1	航空宇宙工学コース	18
都立産技高専の特徴	2	医療福祉工学コース	19
トピックス	3	情報セキュリティ技術者育成プログラム	20
本校の使命、教育理念、		航空技術者育成プログラム	21
学習・教育到達目標、3つのポリシー	4	医工連携 教育・研究プロジェクト	22
JABEE「技術者教育プログラム」認定について	8	スタートアップ教育支援プログラム「地道計画」	23
本科 ものづくり工学科	10	専攻科 創造工学専攻	24
一般科目	11	キャンパスライフ 1年間の行事	26
機械システム工学コース	12	クラブ・同好会	27
AI スマート工学コース	13	主な取組・学生支援	28
電気電子エネルギー工学コース	14	カーボンニュートラル/SDGs への取組	32
情報システム工学コース	15	施設	34
情報通信工学コース	16	資料編 ～ DATA BOOK ～	35

校長あいさつ

都立産技高専は、前身校の都立工業高専と都立航空工業高専を統合・再編し、全国に先駆けて1高専2キャンパスの複数キャンパスとし、1学科8コースのコース制導入と専攻科設置を行い、平成18年度に新たな都立高専として開校しました。

本校は、「首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成」を使命として、科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる応用力、創造力を有した実践的技術者の育成に取り組んでおります。首都東京は、都市部の抱える先端的・複合的な課題から、多摩・島しょなどにおける地域性の高い課題まで、解決の必要な課題が数多(あまた)、幅広く存在します。これらの課題

解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成は、世界の課題の解決に資するエンジニアの育成に繋がると考えています。開校以来、都や時代の要請、産業界のニーズに対応できる資質を持った卒業生を輩出するために、国際社会で活躍できるエンジニア育成を目標とした海外体験プログラム・国際交流事業をはじめ、航空技術者育成プログラム、情報セキュリティ技術者育成プログラム等を推進し、専攻科においては、特例適用専攻科の認定、及びJABEE技術者教育プログラムの認定を受けています。

その後、荒川キャンパスでは、医工連携教育・研究プロジェクトの一環としてコース横断型の学習システムである未来工学教育プログラムが新設され、令和5年度に第1期の修了生が輩出されました。一方、品川キャンパスでは、情報システム工学コースとAIスマート工学コースの2つの新しいコースが設置され、令和7年度に第1期生が卒業しました。さらに、令和7年度より電気電子工学コースが電気電子エネルギー工学コースに名称を変更し、グリーンデジタル人材の育成を目的とした新たなカリキュラムでの学習をスタートしています。一方、キャンパスの垣根を超えた取り組みとしては、これまでの国際化事業を発展させたグローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)やインターナショナル・エデュケーション・プログラム(IEP)といった海外体験プログラムに加え、令和5年度より起業家の素養を育てることを目的としたスタートアップ教育支援プログラム「地動計画」が始動しました。地動計画では、スタートアップに必要な、自らの着眼点やひらめき、疑問を、まだ誰も体験したことのないモノゴトとしてクリエイティブに具体化していく、そんな経験を積む機会を本校の学生に提供しています。

令和8年度は、都立産技高専が開校してから20年目の節目の年となります。AIをはじめとした新たな技術革新が進む中、本高専も時代に即した新しい学びを創設していきたいと考えています。



校長 柴崎 年彦

高等専門学校(高専)とは

1950年代半ばから始まった我が国の目覚ましい経済成長を支え、科学・技術の更なる進歩に対応できる技術者育成という産業界からの強い要請に応え、1962年に12の国立高専と共に、東京都立工業高等専門学校、東京都立航空工業高等専門学校という2つの公立高専が設立されました。それから64年を経た現在、全国に国公私立を合わせ58校の高専が設置されています。

高専では、中学校卒業時の早い段階から本科で5年間、専攻科進学の場合は更に2年間一貫の専門教育を行い、産業界で活躍できる実践的・創造的技術者の育成を目指しています。

本科では学年制を基本として一般科目と専門科目をくさび型に配し、1年次より段階的に専門科目を増やすことにより、無理なく大学とほぼ同程度の専門的な知識・技術を身につけられるよう工夫されています。

また専攻科では本科で学んだ工学の基礎に加え、より高度で専門的な学問・技術を学ぶことにより、創造的・実践的な技術者の育成を目指しています。

高専の本科卒業生は準学士と称することができ、専攻科2年を修了すると、学士(工学)の学位を取得できます。

高専は7年以内ごとに国が認めた認証評価機関による機関別認証評価を受審しており、他にも様々な外部評価により、教育の質の保証と教育研究水準の向上を図っています。

都立産技高専の特徴

東京都立産業技術高等専門学校（都立産技高専）は、首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストを育成する公立高専として、2006年に都立工業高専と都立航空工業高専が統合・再編されて開校しました。

その後、2008年には公立大学法人首都大学東京（現在、東京都公立大学法人）に移管され、首都大学東京（現在、東京都立大学）、東京都立産業技術大学院大学、東京都立産業技術専門学校の3つの高等教育機関が、同じグループとなり、連携が強化されました。具体的には、本校専攻科から東京都立産業技術大学院大学への推薦入試制度や東京都立大学への編入学推薦枠が設置され、学校間の共同研究も推進されています。さらに、都立工業高校からの編入学制度もあり、本校は、首都東京において、多様なキャリアパスを持った技術者教育の中核的な役割を担う教育機関となっています。

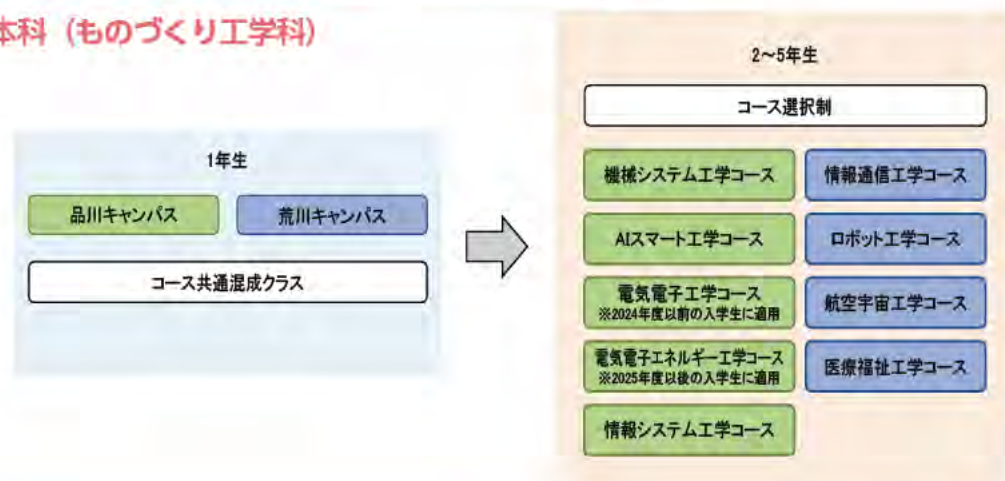
都立産技高専の本科は、ものづくり工学科1学科のみで、2つのキャンパスには、社会の多様なニーズに応えるための特徴的な教育コースを設置しています。1年次に混成クラスで共通の授業を受け、2年進級時にコースを選べるコース選択制が採用されています。

さらに、学校全体で国際化を推進し、ICTを積極的に活用するなど、学生の教育環境の改善に努めるとともに、校内塾による学生への補習体制やキャリア支援教育など、学生への支援体制も充実しています。

就職や大学進学、卒業後の多様な進路



本科（ものづくり工学科）



● **アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト 2025 全国大会にて、荒川キャンパスの B チームが準決勝進出！
A チームはエキシビジョンマッチに出場！**

2025 年 11 月 16 日（日）、両国国技館にて「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2025 全国大会」が開催されました。

2025 年度の競技テーマは「Great High Gate」です。ロボットがボックスを積み上げてゲート（門）を作り、そのゲートを人が乗った台車とともに通過させるという競技内容で、技術力とアイデアの両面が問われる内容でした。

学生たちは、それぞれのアイデアと技術を活かしながら、工夫を凝らして競技に取り組みました。その結果、B チーム「破天荒」は、見事準決勝進出という快挙を達成しました。また、A チーム「あらごんくえすと」はエキシビジョンマッチに出場し、他のどのチームも挑戦できなかった「高さのあるゲート」に果敢にチャレンジする姿を披露し、会場を沸かせました。



● **国際化プログラムから生まれた学生チーム「EneFrappTeam」が、2026 年電気学会 U-21 学生研究発表会で“優秀賞”を受賞！！**

2026 年 2 月 28 日（土）に開催された電気学会 U-21 学生研究発表会において、国際化プログラムから生まれた学生チーム「EneFrappTeam」が、優秀賞を受賞しました。

本発表会には全国から 88 チーム が参加し、日頃の研究や探究活動の成果が発表されました。

「EneFrappTeam」は、グローバル・コミュニケーション・プログラム（以下「GCP」という）の活動をきっかけに生まれた学生チームです。専攻科生をリーダーに、本科 2・3 年生が参加する学年横断のメンバーで構成され、学生同士で議論を重ねながら研究を進めました。学生たちは、国際的な人材の第一歩となる GCP での学びを出発点として、プログラム終了後も自主的に探究活動を継続し、自らテーマを設定して研究を発展させてきました。

研究テーマとして学生たちが着目したのは、再生可能エネルギーの普及という社会課題です。

シンガポールでの現地調査や日本との比較を通して、再生可能エネルギー普及の障壁となっている本質的な課題に気づきました。そのうえで、「どのようにすれば再生可能エネルギーへの関心や行動を広げることができるのか」という視点から、ソリューションを提案しました。

今回の受賞は、GCP で得た学びをきっかけに、学生が自ら課題を発見し、国際的な視点を取り入れながら自主的に探究活動を発展させ、その成果を学会で発信したことが高く評価されたものです。



● **全国大会水泳競技で荒川キャンパス水泳部 戸張さんが 7 位入賞！**

荒川キャンパス水泳部の戸張 真子さん（ものづくり工学科 1 年・受賞当時）が、2025 年 8 月 23 日（土）、24 日（日）に鹿児島県鹿児島市にある鴨池公園水泳プール（屋内・長水路）で行われた全国高等専門学校水泳競技大会において、女子自由形 50m にて 29 秒 60 を記録し、第 7 位に入賞しました。

戸張さんは幼少時代から水泳を始め、中学時代も全国大会に出場するほどの実力者で、今大会でも 1 年生初出場ながら抜群の泳ぎで予選を突破し、見事入賞を果たしました。今後の活躍が大変楽しみな水泳部の期待のホープです。



本校の使命、教育理念、学習・教育到達目標、3つのポリシー

◆ 本校の使命

首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成

◆ 本校の教育理念

《ものづくり工学科》

使命を実現するために、科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる応用力、創造力を有した実践的技術者を育成する。

《創造工学専攻》

より深く精緻な知識と技術を教授し、専門分野における研究を指導することにより、総合的実践的技術者を育成する。

◆ 本校の学習・教育到達目標

学習・教育到達目標		必要とされる能力		具体的な目標	
				本 科	専攻科
1 学習力	総合的実践的技術者として、自主的・継続的に学習する能力	(1)学習計画を立てる力		シラバス等を基に、他の科目との関連性を考慮しながら学習目標を立案できる。その学習目標を基に、具体的な学習計画を立案できる。	
		(2)学習計画に基づいて学習する力		学習計画に基づき自発的に学習することができる。	
		(3)学習計画を評価し、改善する力		学習状況を把握し、計画を改善しながら学習することができる。	
		(4)継続的に学習する力		継続的かつ自発的に学習することができる。 強い探究心を以て課題の発見や解決に努める姿勢が身についている。	
2 コミュニケーション力	総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力	(1)論理力	論理的に考える力	論理的に考えることができる。	
			論理的に表現する力	自らの考えを論理的に口頭及び文章で表現することができる。	
		(2)協働力		情報や他者の考えを理解し、チームで協力して物事に取り組むことができる。	
		(3)プレゼンテーション力		卒業研究の発表会等において、分かりやすい説明を行うことができる。	学会等において、論理的な説明を行うことができる。
		(4)ディスカッション力		他者の考えも尊重しながら自分の意見を主張することができる。	他者の考えも尊重しながら自分の意見を主張することができる。 他者の意見と自分の意見をすり合わせるすることができる。
		(5)語学力		正しい言語で表現(記述・口述)することができる。	
3 人間性・社会性	総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力	(1)社会に対する技術者の役割を考える力		社会の仕組みについての知識をもち、地域社会や産業の要求している内容を把握している。 社会に対する責任や貢献に配慮することができる。	
		(2)技術者倫理		工学技術が社会や自然に与える影響及び技術者が負う倫理的責任を認識し、技術者としての責任ある行動ができる。	
		(3)様々な視点から物事を考える力		広い教養と視野をもち、分野をまたいで様々な角度から物事を考えることができる。 また、日本及び諸外国の文化や歴史的背景を理解し、尊重することができる。	
4 基礎力	総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力	(1)数学力		工学的諸問題の解析や説明に必要な数学の基礎知識を身につける。	工学的諸問題の解析や説明に必要な数学の知識を身につける。
		(2)自然科学力		工学的諸問題の解析や説明に必要な物理学・化学の基礎知識を身につける。	工学的諸問題の解析や説明に必要な物理学・化学の知識を身につける。
		(3)専門的な基礎力		専門分野の基礎的な知識と技術を身につける。	専門分野の知識と技術を身につける。

学習・教育到達目標		必要とされる能力	具体的な目標	
			本 科	専攻科
5 応用力・実践力	総合的実践的技術者として、専門知識を応用し問題を解決する能力	(1)基礎的な専門知識を応用する力	身に付けた基礎的な専門知識を応用し、基本的な課題の解決に取り組むことができる。	身に付けた幾つかの基礎的な専門知識を複合して応用し、課題の解決に取り組むことができる。
		(2)与えられた制約下で問題を解決する力	与えられた制約の下で身に付けた知識を基に問題を解決することができる。	与えられた制約の下で身に付けた知識を基に計画的に問題を解決することができる。
6 創造力	総合的実践的技術者として、工学的立場から地球的視点から社会に存在する問題を発見し、発見した問題を解決する能力	(1)問題を発見する力	地球的視点から社会に存在する問題を自ら発見できる。	地球的視点から社会に存在する問題を自ら発見し、その問題の本質を整理し説明できる。
		(2)問題を解決する力	デザイン力 問題に対する解決手法を考えることができる。	問題に対する解決手法を様々な視点から考えることができる。
		実行力 (3)問題解決手法を公開する力	解決に向け、自ら課題を設定し、専門的知識や技術を動員しその解決を図ることができる。	学会等で成果を、口頭発表または論文発表することができる。

【ものづくり工学科】

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

（教育理念）

首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストを育成するために、科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる応用力、創造力を有した実践的技術者を育成する。

（求める入学者像）

本校の教育理念に基づいた人材を育成するために、以下の能力と意欲を有する生徒を求めている。

- 1 向上心を持ち、自分の決めた目標に向けて粘り強く努力できる人
- 2 高等専門学校での教育を受けるのにふさわしい基礎知識・能力を有している人
- 3 基礎的教養を備え、積極的で協調性のある人※
- 4 コミュニケーション能力を身に付け、世界を舞台に活躍したい人
- 5 ものづくりが好きで、実践的技術者になりたいと考えている人

※編入学者のみ

（入学者選抜方針）

○学力選抜

調査書により中学校での学習の達成度をみるとともに、学力検査により高等専門学校での学習に必要な基礎学力をもっているかを判断する。

○推薦選抜

調査書により中学校での学習の達成度をみるとともに、面接や小論文でコミュニケーション能力の有無や実践的な技術者への意欲を判断する。

○推薦選抜（編入学）

調査書によって工業高校での学習の達成度をみるとともに、面接で高専の学生とともに勉強ができるコミュニケーション能力の有無や実践的な技術者への意欲を判断する。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

・本科

ものづくり工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるために、専門科目と一般科目をくさび形に編成した5年間の一貫した教育課程を編成する。2年次より8つの各コースに分かれ、ものづくり技術の修得を図るため、コース必修科目と選択科目を配置している。

（教育課程の方針：本科共通）

- 1 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- 2 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。

- 3 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- 4 第1学年においては、各工学分野の基礎的な知識を横断的に得るため、ものづくり工学科目を配置する。さらに専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目、数学系科目、自然科学系科目を配置する。
- 5 第1学年においては、各工学分野の基礎的な技術を横断的に体現するためにものづくり工学実験実習を配置する。さらに専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- 6 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

(実施方針)

各科目の評価は、試験、小テスト、レポート、発表、取り組み姿勢、論文などを総合し、下記に示す「成績評価」方法により行う。

(成績評価)

- 1 科目毎に到達目標、ディプロマポリシー・学習教育到達目標との関係、講義の内容、評価方法、ルーブリック等を定め授業開始時に説明を行う。
- 2 成績は100点法により採点する。また、学修の評価は以下の区分により表記し、60点以上を合格とする。

評価	100～90	89～80	79～70	69～60	59～40	39～0	未履修
評語	S	A	B	C	D		E
5段階表記	5		4	3	2	1	未履修
可否	合格（または G）				不合格		未履修

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成という本校の使命を実現するために、発展する技術に対して常に実践的な知識の習得と能力の習得を日々継続し、産業界を支える人材の養成を目的とし、以下の知識や能力などを身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、卒業者に準学士の称号を授与する。

- (1) 生涯現役技術者として活躍するために、自主的・計画的・継続的に学習する能力を有する
- (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する
- (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する
- (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を有する
- (5) 得た専門知識と技術を応用して問題を解決する能力を有する
- (6) 工学的な立場から地球的視点で社会に存在する問題を発見し、発見した問題を解決する能力を有する

【創造工学専攻科】

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

(教育理念)

首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストを育成するために、より深く精緻な知識と技術を教授し、専門分野における研究を指導することにより、総合的実践的技術者を育成する。

(求める入学者像)

本校の教育理念に基づいた人材を育成するために、以下の能力と意欲を有する学生を求める。

- 1 数学や工学に関する基礎知識を有し、より高度な工学を学ぶ能力と意欲のある人
- 2 工学について広い視野を持ち、課題に向かって挑戦する意欲のある人
- 3 コミュニケーション能力を身に付け、科学技術を通して国際社会に貢献したい人

(入学者選抜方針)

○学力選抜

学力検査により高等専門学校本科での学習の理解度をみるとともに、面接により高度な工学を学ぶ意欲、及びコミュニケーション能力の有無を確認し、各コースが求める要件を満たすか否かを総合的に判断する。

○推薦選抜

推薦書、調査書により、高等専門学校本科での学習の達成度をみるとともに、面接により高度な工学を学ぶ意欲、及びコミュニケーション能力の有無を確認し、各コースが求める要件を満たすか否かを総合的に判断する。

○社会人特別選抜

推薦書、調査書により、企業等において実務経験を有し、一定水準以上の基礎学力を身につけていること、また面接により高度な工学を学ぶ意欲、及びコミュニケーション能力の有無を確認し、各コースが求める要件を満たすか否かを総合的に判断する。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本校においては、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるために、機械工学コース、電気電子工学コース、情報工学コース及び航空宇宙工学コースの教育課程を編成する。一般科目は8単位以上、各コースの専門科目54単位以上（必修科目20単位以上とその他の科目34単位以上）を修得できるように科目を配置している。

（教育課程の方針：専攻科共通）

- 1 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、専攻科ゼミナール等を配置する。
- 2 総合的実践的技術者に必要な、コミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成ために専攻科インターンシップ、外国語等の科目を配置する。
- 3 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を高めるため、人文社会系科目を配置する。さらに、技術者として法令遵守の理解、社会に対する使命感・責任感の自覚するため、日本学術振興会が提供する「研究倫理eラーニングコース」を修了する。
- 4 専門性を高めるために、コース共通の共通専門科目を配置するとともに各コースの専門基礎科目を配置する。さらに、技術者としての基礎力を高めるため数学系科目、自然科学系科目を配置する。
- 5 専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を高めるため、専攻科エンジニアリングデザイン等の科目を配置する。
- 6 工学的視点から社会の問題に対して、創造的な解決策を考案する能力を養うため、専攻科特別研究Ⅰ、専攻科特別研究Ⅱを配置する。

（実施方針）

各科目の評価は、試験、小テスト、レポート、発表、取り組み姿勢、論文などを総合し、下記に示す「成績評価」方法により行う。

（成績評価）

- 1 科目毎に到達目標、ディプロマポリシー・学習教育到達目標との関係、講義の内容、評価方法、ループリック等を定め授業開始時に説明を行う。
- 2 成績は100点法により採点する。また、学修の評価は以下の区分により表記し、60点以上を合格とする。

評価	100～80	79～70	69～60	59～0
評語	A	B	C	D
可否	合格			不合格

修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成という本校の使命を実現するために、発展する技術に対して先進的な知識の習得及び能力の習得を日々継続し、産業界を牽引する人材の養成を目的とし、以下の知識や能力などを身に付け、所定の単位を修得し、大学改革支援・学位授与機構の定めた条件を満たした学生に対して、修了を認定する。

- 1 生涯現役技術者として活躍するために、主体的・計画的・継続的に学習する能力を有する
- 2 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する
- 3 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養を高め、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する
- 4 自らの専門とする分野の知識と技術を主体的に得る能力を有する
- 5 専門知識と技術を応用して問題を解決する能力を有する
- 6 工学的な立場から地球的視点で社会に存在する問題を発見し、発見した問題を解決する能力を有する

JABEE「技術者教育プログラム」認定について

本校は JABEE の「技術者教育プログラム」の認定審査により、2022 年 3 月 3 日付けで日本技術者教育認定基準に適合していると認定されました。

① 本校の取組

本校は東京都の産業振興や課題解決に資する「ものづくりスペシャリスト」の育成を使命とし、開校以来、グローバル化が進む社会に対応すべく様々な教育の取組を進めて参りましたが、その中で、日本技術者教育認定機構（JABEE ＊）の教育プログラム認定の受審に向け、2013 年度より専門部会を設置し、2021 年度の審査により適合と認定されました。

この認定を受け、2019 年度入学の専攻科修了生より、技術士国家試験の一次試験免除が認められています。

この認定は本校の教育改善活動と教育質保証が国際的な基準で認められたことを意味しており、本校は今後も継続的な教育改善活動により、より質の高い教育環境の構築を目指して努力していきます。

* JABEE とは

日本技術者教育認定機構（JABEE : Japan Accreditation Board for Engineering Education 1999 年 11 月 19 日設立）は、我が国の技術者教育の内容・水準の国際的な同等性を確保するため、技術系学協会と密接に連携しながら、技術者教育プログラムの認定・審査を行う一般社団法人です。

② 本校の教育プログラム

品川キャンパス

機械工学プログラム
Mechanical Engineering

電気電子工学プログラム
Electrical and Electronic Engineering

情報工学プログラム
Computer Science

融合工学プログラム
Interdisciplinary Engineering

※融合工学プログラムについては、今後申請予定

荒川キャンパス

創造システム工学プログラム
Systems Engineering

本校は、首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成を使命として、グローバル化に対応した国際的に活躍できる総合的実践的技術者の育成を目指して JABEE を受審し、「教育プログラム」と「学習・教育到達目標」を定め教育を行います。

教育プログラムは、機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、情報工学プログラム、融合工学プログラム、そして創造システム工学プログラムの5つからなり、本科 4 年次から専攻科 2 年次までの 4 年間にわたり実施されます。

これらの教育プログラムは、次ページの表に示す学習・教育到達目標を基に、本科でのエンジニアに必要な基礎教育から、専攻科でのより深く精緻な知識と技術の教授と、専門分野における研究の指導により、科学技術の高度化、複合化に対応できる応用力、創造力を有した総合的実践的技術者の育成を目指して設計されています。

表 学習・教育到達目標と JABEE 基準の関係性

	JABEE基準＊	
	品川キャンパス	荒川キャンパス
1【学習力】	(g)	
自主的・継続的に学習する能力		
2【コミュニケーション力】	(f) (i)	
協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力		
3【人間性・社会性】	(a) (b)	
産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養を持ち、技術者として社会とのかかわりを考える能力		
4【基礎力】	(c) (d)	
数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力		
5【応用力・実践力】	(d) (e) (h) (i)	
専門知識を応用し問題を解決する能力		
6【創造力】	(a) (b) (e) (f) (h)	(a) (b) (d) (f) (g) (h)
工学的立場から地球的視点で社会に存在する問題を発見し、発見した問題を解決する能力		

* 表中の1～6は本校の学習・教育到達目標を示し、小文字のアルファベット (a) ～ (i) は日本技術者認定機構が下記の通り定める、知識・能力観点を示す

JABEE の知識・能力観点

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解
- (c) 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを応用する能力
- (d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- (g) 自主的、継続的に学習する能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (i) チームで仕事をするための能力

3 各教育プログラムの育成する技術者像

機械工学プログラム

機械工学の基盤となる専門知識と、ものづくりの総合的技術・技能に関する実践的応用力を有し、問題発見・分析・解決能力を発揮して、産業界のニーズに的確に応え国際的に活躍する機械技術者を育成します。

情報工学プログラム

情報システムは重要な社会基盤の1つです。この情報システムを設計・構築・運用するためには、情報学および数理情報の基礎知識を習得し、それらを活用する能力が必要です。情報工学プログラムでは、コンピュータ・サイエンスに関する基礎力・実践力を有し、次世代の情報システムを牽引する技術者を育成します。

融合工学プログラム

「機械」、「電気電子」と「情報」の各領域を基盤とする、新たな融合領域における新たな「もの」を創造する必要があります。そのためには、AIを活用したデジタルものづくりが必須となります。融合工学プログラムでは、デジタルものづくりを基礎とし、新たなIoTシステムを創造する技術者を育成します。

電気電子工学プログラム

現代社会は電気電子技術なしでは成り立つことはできません。世の中は電気電子技術を使用した機器であふれています。しかし、地球環境の保全、限られた資源の有効利用の必要性が高まる中で、エネルギー、エレクトロニクスの各技術だけではなく、これらを統合することで高度知能化・高集積化を可能にする情報・制御技術も必要になります。電気電子工学プログラムでは環境・クリーンエネルギー、エレクトロニクス、情報・制御の分野で活躍できる高度なものづくり技術を修得した技術者を育成します。

創造システム工学プログラム

グローバル化した社会において、高度化、複合化した工学分野の諸問題を解決して「ものづくり」を行うために、基礎となる機械工学技術、電気電子工学技術とそれらを結ぶ情報システム技術について深い専門性を養いつつ、先進的な他の分野の知識と技術を身に付けます。創造システム工学プログラムでは、このような複合的な教育を行うことにより、多角的な視野から問題を解決する能力を備えた創造力豊かな、世界に通用する「ものづくり技術者」を育成します。

本科 ものづくり工学科

特色

本校の使命である首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストを育成するため、ものづくり工学科の教育課程には工夫が凝らされています。

5年間の教育課程の中で、1年次には、ものづくり工学の基礎全般を学習するために共通の科目を履修し、2年次に8つのコースから希望のコースを選択することができます。また、ものづくり技術を修得するために、各コースの実技科目には総開講時数の約3割が配分されています。

ものづくり工学科共通の専門必須科目として、「情報リテラシー」、「プログラミング基礎」、「基礎電気工学」、「基礎製図」、「ものづくり実験実習」の科目が設けられています。また、技術を通して社会に貢献するものづくり技術者を育成するための科目が設置され、首都東京の抱える環境・エネルギー問題、高齢者福祉問題、産業振興に付随する諸問題の解決に、学生が技術的観点から取り組める教育課程となっています。

学科	教育コース（2年次から選択）	キャンパス
本科 ものづくり工学科 (2024年度以前の入学生に適用)	機械システム工学コース Mechanical Systems Engineering Program	品川
	AIスマート工学コース AI and Smart Engineering Program	
	電気電子工学コース Electrical and Electronic Engineering Program	
	情報システム工学コース Information Systems Program	
	情報通信工学コース Information and Telecommunication Engineering Program	荒川
	ロボット工学コース Robotics Program	
	航空宇宙工学コース Aerospace Engineering Program	
	医療福祉工学コース Medical and Welfare Engineering Program	

学科	教育コース（2年次から選択）	キャンパス
本科 ものづくり工学科 (2025年度以降の入学生に適用)	機械システム工学コース Mechanical Systems Engineering Program	品川
	AIスマート工学コース AI and Smart Engineering Program	
	電気電子エネルギー工学コース Electrical, Electronic and Energy Engineering Program	
	情報システム工学コース Information Systems Program	
	情報通信工学コース Information and Telecommunication Engineering Program	荒川
	ロボット工学コース Robotics Program	
	航空宇宙工学コース Aerospace Engineering Program	
	医療福祉工学コース Medical and Welfare Engineering Program	

一般科目



一般科目は、教養、倫理観、健全な心身を有する人間形成を図る教養教育の役割と、科学技術分野で活躍する“ものづくりスペシャリスト”を育成する専門科目の入門となる専門基礎教育の役割をあわせ持つ重要な科目群です。

一般科目の学習効果をあげるために、ものづくり工学科の5年間一貫教育の利点を活かし、後期中等教育段階から高等教育段階へと円滑かつ効果的に移行するようにカリキュラム編成に工夫を凝らしています。

第1学年、第2学年では習熟度に応じて基礎学力をしっかりと身につけられるように補講的な選択科目を配置し、第3学年では、語学科目に少人数授業を導入することにより、実践的能力を身につけられるように配慮しています。さらに、第3学年からは多様な選択科目を設けることで学生各自の志向や興味に応えられるように、教員の専門性や研究成果を活かした魅力ある授業を展開しています。

一般科目の学習を通じ、人間と自然、人間と社会の関係を深く考察するとともに、自然環境と共生し平和な社会構築に貢献するための柔軟な発想力、豊かな創造性、高い倫理観を持った技術者の育成を目指しています。

育成する人材像

人間と社会および自然、各分野にわたり次の3点を目標にした学生の育成を図る。

- 1 基礎学力をもち、自然科学の概念を理解し、専門分野に応用する力を有した学生
- 2 健康で、社会人としての必要な教養を有した学生
- 3 現代社会で求められる表現力やコミュニケーション能力を有した学生

カリキュラム・ポリシー

- 1 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- 2 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- 3 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- 4 第1学年においては、各工学分野の基礎的な知識を横断的に得るため、ものづくり工学科目を配置する。さらに専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
- 5 第1学年においては、各工学分野の基礎的な技術を横断的に体現するためのものでものづくり工学実験実習を配置する。さらに専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- 6 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

機械システム工学コース



機械工学は、私たちの生活を支える重要な技術分野であり、その応用範囲は深海探査から宇宙開発まで広がっています。近年、AIやIoT、先端材料科学、ライフサイエンスとの融合により、ロボティクスやスマートファクトリー、持続可能なエネルギーシステムなど、新しい技術領域が次々と誕生しています。こうした技術の進化に伴い、DX（デジタルトランスフォーメーション）やGX（グリーントランスフォーメーション）を推進できる機械技術者の需要が国際的に高まっています。

機械システム工学コースでは、これらの社会の要請に応え、「機械工学の基盤となる専門知識と、ものづくりの総合的技術・技能に関する実践的応用力を有し、問題発見・分析・解決能力を発揮して、産業界のニーズに的確に応え国際的に活躍する機械技術者」を育成することを目標としています。低学年では製図や基礎実習を通じて実践力を養い、学年が進むにつれて、機械力学・材料力学・流体力学・熱力学に加え、材料、加工、制御、データサイエンスなどの専門知識を体系的に学びます。高学年では、設計製図や工学実験を通じて、理論と実践の両面から設計開発能力を高めます。

高学年でのゼミナールや卒業研究を通じて、現代社会が直面する課題に取り組めます。学生は研究室に所属し、指導教員のもとで、課題解決や新技術の創出に挑戦します。この過程で、問題発見・分析・解決能力を身につけるとともに、企画・設計・製作の実践力を養います。さらに、最先端の研究手法やデータ駆動型の科学的思考を習得することで、産業界のニーズや国際的課題に対応できる能力を身につけ、機械技術者としての資質を飛躍的に向上させます。

育成する人材像

- 1 機械工学の基盤となる専門知識を有した技術者
- 2 ものづくりの総合的技術・技能に関する実践的応用力を有した技術者
- 3 問題を発見・分析・解決する能力を有した技術者
- 4 産業界のニーズに的確に応え、国際的に活躍できる能力を有した技術者

カリキュラム・ポリシー

- 1 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- 2 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- 3 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- 4 機械システム工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (1) 機械を知るために必要な基礎知識として、力学系科目を配置する。
 - (2) 機械を創るために必要な基礎知識として、設計製図・加工・材料系科目を配置する。
 - (3) 機械を動かすために必要な基礎知識として、制御系科目を配置する。
- 5 第1学年においては、各工学分野の基礎的な技術を横断的に体現するためにものづくり工学実験実習を配置する。さらに専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- 6 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

AIスマート工学コース



電話がスマートフォンへ、時計がスマートウォッチへ変わったように、様々な「もの」がインターネットにつながりスマート化され進化しています。これからの時代は AI やスマート化技術を活用することで、未来都市の「スマート東京」ができるでしょう。

例えば、自動運転について考えてみましょう。車などのモビリティに搭載されたカメラで撮影した映像データが AI へ送られます。AI はその映像データと大量の蓄積データを照合し、最適なモータの動かし方を考え、スマートな運転を実現してくれます。次世代のものづくりは、これまでの技術× AI にあり、個々のニーズ（欲求）に合ったきめ細かなサービスが実現され、人間中心の新しい未来社会が来るでしょう。

AI スマート工学コースでは、AI を活用し、スマート化技術で「もの」をつくる技術者を育成します。そのために、機械、電子工学をベースにデジタルで「もの」を「かたち」にする技術、「もの」同士を「つなげる」技術、「もの」を「動かす」技術、「AI」を「活用」する技術を実際に体験しながら学びます。

育成する人材像

- 1 コンピュータによるデジタルものづくり技術を駆使し、スマートモビリティやロボットなどをデザインしてかたちにできる技術者
- 2 ハードウェアとソフトウェアに関する素養を有し、センサ、アクチュエータ、ネットワークを統合したスマート技術をデザインできる技術者
- 3 AI を活用してデータを解析し、人の役に立つものづくりを通して、新しい社会づくりを担うことのできる技術者

カリキュラム・ポリシー

- 1 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- 2 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- 3 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- 4 AI スマート工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (1) デジタルエンジニアリングの基礎及び 3D-CAD・CAM・CAE とその運用法について学習するため、力学や設計、製図に関する科目を配置する。
 - (2) スマート技術の基礎について学習するため、ハードウェア、ソフトウェア、センサ、アクチュエータに関する科目及び組込システム、ロボティクス、ネットワークに関連する科目を配置する。
 - (3) AI の基礎について学習するため、数理・データサイエンス・機械学習系科目を配置する。
- 5 第1学年においては、各工学分野の基礎的な技術を横断的に体験するためにものづくり工学実験実習を配置する。さらに専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- 6 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

電気電子エネルギー工学コース



電気電子工学は、照明、交通、情報通信、エネルギーといった社会基盤を支える技術分野です。インターネット、コンピュータ、スマートフォンなど、情報化社会や知識基盤社会に不可欠なこれらのツールも、電気電子工学によって創造されました。BCI、ハプティクスなど、エンターテインメントでも利用が期待される新しいアイディアも、電気電子工学によって実用化されつつあります。しかし、技術は社会を発展させてきた一方で、地球の循環システムへ悪影響を与えるという指摘もあり、人類は社会の持続に危機を抱くようになってきました。

電気電子エネルギー工学コースは、社会の発展および持続のため、技術革新に挑戦し続けるグリーンデジタル人材を育成します。本コースの教育プログラムでは、電気工学、電子工学、情報・制御工学の基礎を低学年で固め、高学年では再生可能エネルギー、パワーエレクトロニクスといった環境への負荷低減技術、ワイヤレス通信、半導体、機械学習といったより高度なデジタル技術を学ぶ機会を提供します。更に、実験、実習、プロジェクトといった体験型の授業では、少人数のチームに分かれて学習することにより、求められるプロダクトやサービスを生み出すために、知識をつなげる力、自身の考えを言葉や数式やデザインを用いて表現する力、多様な価値観をもつ仲間とつながる力を養っていきます。

なお、本コースは電気主任技術者（第2種）の認定校です。必要な科目単位を取得した卒業生は、この資格の国家試験を免除されます。

（2024年度以前に入学した学生は「電気電子工学コース」所属となります。）

育成する人材像

- 1 社会情勢や技術の進歩へ適応し、持続可能な社会の構築に貢献できる技術者
- 2 グリーンエネルギーの創生・変換技術及びデジタル・IoT技術を理解し、ハードウェアとソフトウェアを実装できる技術者
- 3 問題を発見し、自身の知識・実装スキルを駆使し解決に向けて挑戦し続ける技術者
- 4 アイデアを言語化し、自身と異なる能力を有する他者とも協働できる技術者

カリキュラム・ポリシー

- 1 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- 2 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- 3 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- 4 電気電子エネルギー工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (1) 電気電子エネルギー工学の基礎となる電気・電子回路、電磁気学、情報処理の科目を低学年に配置する。
 - (2) エネルギー、エレクトロニクス、情報・制御に関する専門科目を高学年に配置する。
 - (3) 専門知識を活用し、持続発展可能な社会実現に寄与する電気電子回路やプログラムの設計・製作科目を高学年に配置する。
- 5 第1学年においては、各工学分野の基礎的な技術を横断的に体現するためにもものづくり工学実験実習を配置する。さらに専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- 6 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究等を配置する。

情報システム工学コース



情報システム工学コースでは、

- 1) 高度ICTアーキテクト (情報通信インフラを設計・構築できる人材)
- 2) 高度情報アーキテクト (ビッグデータ、AI を活用できる人材)
- 3) 高度情報セキュリティアーキテクト (情報システムの安全・安心を担保できる人材)

の育成を三本柱とし、コンピュータサイエンスの基礎から ICT 応用までを学び、日々進化する情報通信技術の活用と構築に必要な知識・技術の修得を目指し、次世代の情報産業基盤を支える人材を育成します。

情報アーキテクト

データハイウェイ
データプラットフォームの活用



育成する人材像

- 1 倫理観を有した技術者 (必須)
- 2 高度 ICT インフラを設計・構築・運用できる能力を備えた技術者 (高度 ICT アーキテクト)
- 3 高度 ICT インフラを利活用し新たな情報サービスを創出できる能力を備えた技術者 (高度情報アーキテクト)
- 4 高度 ICT インフラおよびサービスの安全・安心を担保できる能力を備えた技術者 (高度セキュリティアーキテクト)

カリキュラム・ポリシー

- 1 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- 2 技術者に必要なコミュニケーション能力 (集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力) を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- 3 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- 4 情報システム工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (1) コンピュータサイエンスにおける基礎知識を学習するための科目を配置する。
 - (2) 高度 ICT インフラの構築技術を学習するための科目を配置する。
 - (3) 多種多様なデータを収集・処理・分析・提示するための基礎技術を学習する科目を配置する。
 - (4) 情報セキュリティの基礎技術を習得するための科目を配置する。
- 5 第1学年においては、各工学分野の基礎的な技術を横断的に体現するためにものづくり工学実験実習を配置する。さらに専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- 6 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

情報通信工学コース



情報通信工学は、IT 社会と呼ばれている現代の情報通信技術の基盤を支える技術分野です。特に、「ハードからソフトまで」「LAN から WAN まで」「有線から無線まで」「海洋から宇宙まで」と、あらゆる場面で情報通信技術のエキスパートが必要とされています。

情報通信工学コースでは、情報通信技術のエキスパートとして活躍できる学生の育成を目指しています。そのために、計算機工学を理解しながら情報処理を学習し、電気電子工学を学習した上で通信工学を学習し、さらに、相互に密接に関連する情報技術と通信技術を並行して学習しています。また、本コースのカリキュラムでは、単に座学で理論を理解するだけでなく、実験・実習を通して、実践的なものづくりの基礎的技術や応用的技術を学習し、「創造実習（第4学年）」などの科目によるものづくりの基礎工程を十分に体験することで、卒業時には課題発見解決型の技術者となることを目指しています。

さらに、本コースでは総務大臣により第二級陸上特殊無線技士および第二級海上特殊無線技士に関する科目内容の確認（電波法第41条第2項第3号、無線従事者規則第31条）を受けており、所定の5科目を履修し単位取得すれば、これらの資格の国家試験が免除されて卒業時に試験を受けることなく免許を取得することができます。

育成する人材像

- 1 情報通信技術を自在に適用できる能力を有した技術者
- 2 実社会に必要な基礎力を習得した上で、即戦力的な応用能力とコミュニケーション能力を有した技術者
- 3 新しい技術の進歩にも柔軟に対応できる能力を有した技術者
- 4 新しい使用方法や機能を創造できる能力を有した技術者

カリキュラム・ポリシー

- 1 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- 2 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- 3 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- 4 情報通信工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (1) 低学年で電気・電子工学の基礎を学習する科目を配置する。
 - (2) 高学年で情報・通信分野の専門科目を配置する。
 - (3) 学んだ専門科目の内容を、ソフトやハードで実現できるものづくり能力を学習する科目を配置する。
- 5 専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- 6 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

ロボット工学コース



高度な生産技術を支えるだけでなく、“少子高齢化や災害”等、日本が抱える社会問題を解決し、豊かで住みやすい社会を創造するために期待される「ロボット技術」は機械分野、電気・電子・制御分野のいろいろな技術から成る融合技術です。「ロボット技術」は人間の骨格にあたる「機械」、神経にあたる「電気・電子」、反射や運動などをつかさどる「情報・制御」の技術分野から成り立っています。



そこで、本コースでは、「ロボットをテーマとしたものづくり教育」に重点を置きながら、機械系、電気・電子系、情報・制御系の技術をバランス良く教授することにより、広い視野を持った総合技術者の育成に力を入れています。

まず第2学年において、自走ロボットの製作（制御実習）と受動二足歩行ロボットの製作（部品加工・機械組立実習）により、創造的なものづくりの楽しさに触れます。その後、ものづくりの基礎となる力学、加工学、設計製図、機構学などの機械工学科目とロボットを駆動・制御するための電気・電子工学、センサ工学、情報・制御工学などの電子制御工学科目を学習するとともに、併行して実験・実習を行うことにより実践的な総合技術を学びます。

育成する人材像

- 1 少子高齢社会が進む現代において、多様な社会ニーズに対応して人々の暮らしを豊かにするため、ロボットなどの技術を活かす能力を有した技術者
- 2 ロボットなどを理解するために必要な機械工学、電気電子工学、計測・制御・情報工学に関する科目の基礎力を有した技術者
- 3 ロボットなどを開発、設計、加工、組立、運転するために必要な実践力を有した技術者
- 4 ロボットなどのものづくりを他者と協同で実現するために必要なコミュニケーション能力や創造力、問題解決能力を有した技術者

カリキュラム・ポリシー

- 1 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- 2 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- 3 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- 4 ロボット工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (1) ロボットなどに必要な機械工学系、電気電子工学系、計測・制御・情報工学系の基礎工学科目を配置する。
 - (2) ロボットなどの実践的工学技術に繋がる機械工学系、電気電子工学系、計測・制御・情報工学系の応用工学科目を配置する。
- 5 第1学年においては、各工学分野の基礎的な技術を横断的に体現するためにものづくり工学実験実習を配置する。さらに専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- 6 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

航空宇宙工学コース



現在、航空機及び宇宙機は、高速輸送、観測、通信などで利用され、日常生活になくてはならないものになっています。また、空や宇宙への憧れを実現するものとしての魅力もあります。そして、これら関連機器には最先端で高度な技術が用いられており、さらに安全性や信頼性が強く求められるという特徴があります。



航空宇宙工学コースでは、航空宇宙工学を理解するために必要な基礎学力と、機械・機器の開発、設計、製造などに必要な基礎知識を有する学生の育成を目指しており、航空機、エンジン、ロケット、人工衛星、宇宙機器などを題材として、それらに必要な理論及び技術の教育を実践します。



具体的には、低学年でまず工学一般に関する基礎科目を学習し、航空宇宙工学に関する基礎理論へと発展させます。それら一つ一つの原理は明確であるため、工学を学ぶ題材として最適であり、理解を深めることにつながります。さらに、高学年では設計、製造、開発、利用技術へと内容を深め、それまでに学んだ知識を「航空宇宙機」に集約することにより、システムの捉える学習をします。

これらの総合的な学習を通して、航空宇宙分野をはじめとして各種の機械・機器の開発、設計、製造などにおいて柔軟に適應できる能力をもち、創造力豊かで応用力のある技術者を育成します。また、これまでの教育に加え、航空技術者育成プログラムとして、航空機整備などの実務に長けた技術者の育成も行っています。

育成する人材像

- 1 航空宇宙工学の学習を十分に理解するために必要な基礎学力を有した技術者
- 2 航空宇宙工学の基礎理論と現象の理解力を有した技術者
- 3 航空宇宙分野をはじめとする各種の機械、機器の開発、設計、製造などに必要な基礎知識を有した技術者
- 4 ものづくりに必要なチーム力、創造力、応用力および問題解決能力を有した技術者

カリキュラム・ポリシー

- 1 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- 2 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- 3 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- 4 航空宇宙工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (1) 低学年では、機械工学などの基礎科目を配置し、その基礎の上に航空宇宙工学の基礎理論を配置する。
 - (2) 低学年から航空宇宙機を題材として、その原理に対する理解をより深めるための科目を配置する。
 - (3) 高学年では、それまでに学んだことを航空宇宙機に集約することにより、システムの捉えるための科目を配置する。
- 5 第1学年においては、各工学分野の基礎的な技術を横断的に体現するためにものづくり工学実験実習を配置する。さらに専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- 6 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

医療福祉工学コース



医療福祉工学コースは、人々が快適で安心して生活できるしくみに技術面から貢献することをテーマとするコースです。私たちの身の回りでは、あらゆるところで生活の中に技術が応用されています。その中でも特に、医療や福祉の分野はこれから解決に取り組むことが期待される多くの課題が提起されています。



医療福祉工学コースでは、あらゆる分野で活躍可能な技術者を育成するため、医療や福祉をテーマとして学ぶ中で、電気電子工学、機械工学、情報技術を身につけることを目標としています。



第3学年までは、専門基礎科目である電気電子工学、機械工学科目を学習し、ものづくり能力の育成を図り、第4学年以降は、工学分野の基礎理論や技術を土台に、医療福祉分野の専門科目及び、関連科目を学習し、工学的観点から生体の機能や特性を理解し、工学的に人々の生活に貢献する技術の修得を目指します。また、第4学年のゼミナールと第5学年の卒業研究では、学生は数人ごとに希望する研究室に配属され、教員からの直接指導を受けながら、各自の研究テーマに取り組めます。

こうした研究を通じて、創造力と問題解決能力の涵養を図り、幅広い分野で応用できる工学基礎力を身につけた実践的なものづくりスペシャリストの育成を目指します。

育成する人材像

- 1 人々が健康で安全に、安心して快適に暮らせる社会を実現させるための工学技術を有した技術者
- 2 医療福祉機器を開発設計、製作するために必要な電気・電子・機械・情報各工学基礎力を有した技術者
- 3 人間と機械・機器を繋ぐ技術創造力を有した技術者
- 4 教員と学生の双方向教育の実践により問題発見とその解決を繰り返し発展させていく能力を有した技術者

カリキュラム・ポリシー

- 1 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- 2 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- 3 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- 4 医療福祉工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目、数学系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (1) ものづくりに必要な、電気電子工学、機械工学を主軸に情報工学なども含めた基礎工学科目を配置する。
 - (2) 医療や福祉をテーマに、人々の生活に幅広く応用できる、人間中心のエンジニアリングの基礎を学習する科目を配置する。
 - (3) あらゆる分野で応用可能な電子・機械・情報各工学の応用科目を配置する。
- 5 第1学年においては、各工学分野の基礎的な技術を横断的に体現するためにものづくり工学実験実習を配置する。さらに専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
 - (1) 実験・実習を通して、実践的なものづくりの基礎的技術や応用的技術を学習する。
- 6 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

情報セキュリティ技術者育成プログラム

“学生の「礎」を社会と協働して構築する社会を目指して”を合言葉に2016年4月にスタートした情報セキュリティ技術者育成プログラムは、2019年3月に第1期本科プログラム履修生、2021年3月に第1期専攻科プログラム履修生を輩出しました。

この間、情報セキュリティ技術者育成プログラム履修生らは、セキュリティ・キャンプ全国大会参加、KOSEN SECCON 優勝・SECCON CTF 文部科学大臣賞チーム賞受賞、セキュリティ・キャンプ全国大会チューターやNOC (Network Operation Center)、Interop STM (Show Net Member)・Internet Week NOCを担うなど、履修生らの活躍はこれまでに無い大きなインパクトを本校に与えています。

「礎」として情報セキュリティ技術者育成プログラム履修生は、情報セキュリティを学習前に「裁判傍聴」および「弁護士との議論」を通じ「自分と社会」「法と自分」について考え倫理観を醸成します。次に、情報セキュリティ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（実習時間 225 時間）を通じ情報セキュリティに関する基礎的なスキルを習得します。さらに、現役の情報セキュリティ技術者（客員教員）が担当する情報セキュリティ・情報セキュリティ特別実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・情報セキュリティ監査を通じ実践力を習得します。

これらに加え社会貢献活動として、情報セキュリティ技術者育成プログラム履修学生は、中学生向け情報セキュリティ勉強会「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」や中学生向け ICT 勉強会「ICT 基礎 Lab. for Junior」を企画・運営します。

現在、高等教育機関で情報セキュリティを学習している学生は多くありません。情報セキュリティを学習することは、キャリア形成において同世代の学生より優位な立場を築くことが可能です。このことは企業の採用プロセスにも変化を生み、これまで新卒採用を行っていなかった企業・学部卒業以上しか採用していなかった企業においても本科卒業生を採用する企業も現れています。

現在、企業との連携・大学との連携を強化し、組織の壁を越えた教育スキーマを構築しています。今後、さらに連携を強化しプログラム履修生の挑戦を支援します。

【産学連携】

富士電機 IT ソリューション株式会社、株式会社ラック、株式会社オプティム、大日本印刷株式会社、NEC セキュリティ株式会社、株式会社サイバーディフェンス研究所、株式会社 FFRI セキュリティ、パナソニック ホールディングス株式会社、株式会社ハートビーツ、ジェイズ・コミュニケーション株式会社、株式会社ユービーセキュア、株式会社セキュアサイクル、アライドテレシス株式会社、株式会社リクルート、フォーティネットジャパン合同会社、株式会社日本レジストリサービス、株式会社 NTT データ先端技術、アルテリア・ネットワークス株式会社、株式会社セキュアスカイ・テクノロジー、株式会社サイバーエージェント、キャノン IT ソリューションズ株式会社、ダイナミックマッププラットフォーム株式会社、株式会社ブロードバンドセキュリティ、BBIX 株式会社、ソフトイーサ株式会社、東京水道株式会社、株式会社フツレ



【学学連携】

北陸先端科学技術大学院大学、長崎県立大学、電気通信大学

航空技術者育成プログラム

訪日外国人旅行者の増加やその後の航空需要を見据え、首都圏の空港の機能強化と国際化に必要な航空技術者が求められています。また、新型航空機は複合材化、電動化、インテリジェント化などが進められ、航空技術者に求められる技術知識レベルの高度化が進んでいます。こうした中、航空整備技術を有し、かつ技術知識レベルの高度化にも対応できる人材の育成が急務となっています。

そこで、本校では、航空技術者育成プログラムを構築し、グローバルに活躍できる航空技術者を育成していきます。荒川キャンパス航空宇宙工学コースの2年生から5年生（各学年8名程度）を本プログラムの対象とし、製造に関する航空機製造技術、主にエアライン整備に関する整備技術等を身に付けることができます。

【卒業生の進路】

2024年度 進学2名、大手エアライン3名、航空機メーカー3名

2025年度 進学1名、大手エアライン2名、航空機メーカー3名

2020年度に本校の航空技術者育成プログラムの教員が製作した「航空計器構造及び基本技術を学ぶトレーナー」が、学生の立場にたった教材であると（公社）日本航空技術協会から評価され、「表彰審議会委員長特別賞」を受賞いたしました。これらトレーナーを講義で使用するることによって、より実践的で理解しやすい教育を行っています。

2021年度から、体系的かつ実践的な幅広い知識や視野を有し、将来、航空産業の生産分野における指導的な役割を担える人材を育成するとともに、他産業界でも活躍できる人材の育成を目指す目的で航空産業企業と連携した「航空産業人財育成プログラム」が立ち上がり、2023年度以降からは、「E-Learning」、「座談会」、「対面授業」および「フィールドトリップ」の教育が連携企業から提供されています。

【連携企業】

株式会社 IHI、川崎重工業株式会社、株式会社 SUBARU、三菱重工業株式会社、株式会社 ジャムコ、全日本空輸株式会社、日本航空株式会社



医工連携 教育・研究プロジェクト

東京都が掲げる人生100年時代を実現するためには、健康で豊かな生活を支援するシステムや機器の開発が必要です。本校では、技術面からこれらの開発を支えるために、医学と工学分野の融合・複合を可能にする人材の育成を目指し、以下の3つのプログラムを実施しています。

「未来工学教育プログラム」

荒川キャンパス4コースのカリキュラムに加えて、技術潮流に合わせた最先端技術を学ぶ技術者育成プログラムです。現在のテーマは、医工分野で注目されているIoT+AI技術の社会実装です。オブジェクト指向型プログラミングを基本に、データサイエンスや機械学習を学びます。更に、デザイン思考のプロジェクト科目を通して、柔軟な発想力と実践力を身につけます。



「医工連携共同研究プログラム」

技術者だけでは方向性を見出すことが難しい医療福祉分野において、東京都立大学健康福祉学部および近隣医療機関との協働で、パラメディカルや医師との連携による問題解決を試みます。医工両者が多様な視点から共同で研究を行うことにより、シナジーを発揮した開発が期待できます。

台東区台東病院の困りごと解決

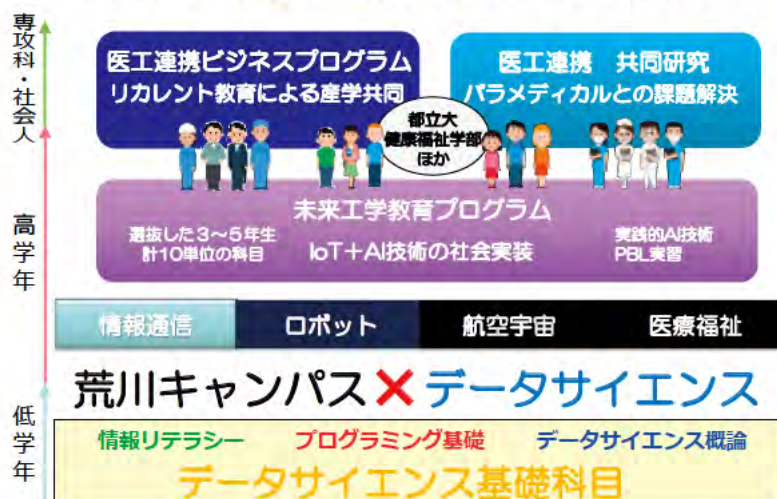


「医工連携ビジネスプログラム」

ウェルネス実現のための医工分野の技術をさらに深めたい技術者や、新たな分野に挑戦したい技術者を対象として、実習演習を重視した基礎から学べるビジネスプログラムです。医療現場の状況や問題点を把握し、新たなサービス・機器の開発が可能な技術者を育成することを目指します。



医工連携教育・研究プロジェクト



スタートアップ教育支援プログラム「地動計画」

産技高専では、新たな価値を生み出すスタートアップへの関心を高め、起業について学生目線で学び、考えるためのスタートアップ教育支援プログラム「地動計画」(以下「地動計画」といいます。)を提供しています。

「地動計画」は参加する学生それぞれが興味を持っている、または疑問に思っているモノゴトからテーマを設定し、新しい視点によるプロトタイプを制作、発表することをスターティングコースのゴールとしており、さらにアドバンストコースでは参加者それぞれの事業化への計画に対し、先輩起業家からのアドバイスを受けることができます。

第3期となる2025年度は、品川・荒川両キャンパスからスターティングコース18名、アドバンストコース3名の参加があり、全員が無事修了しました。

地動計画

Discovery Create Proof



「地動計画」の特徴

「地動計画」の主な活動として、以下の3点があげられます。

- ① 高専生ならではの『ものづくり』を活動の中心として、制作した作品(プロトタイプ)の説明を行い、周りの人たちからフィードバックを得る機会を持つことに重点を置いたスターティングコース(定員25名)
- ② 具体的に起業をイメージしながら更にものづくりを進め、事業計画を練り、アントレプレナーシップを身に着けることを意識したアドバンストコース(定員5名)
- ③ 起業を知る・意識するきっかけを提供するオンラインツール「産技高専PLAY CAMPUS」(全本科生対象)

「地動計画」は、キャンパスや学年の垣根を超え、個人で参加するプログラムですが、参加者同士の仲間意識が芽生え、会話がいろいろなヒントになることもあります。活動にあたっては、常にアドバイザーからのサポートが受けられ、プロトタイプを作り上げることで高い達成感も得られます。

「地動計画」活動の流れ(2025年度)

〈スターティングコース〉

- ・4-6月 説明会、ワークショップ、参加申込、参加者決定
- ・7月 活動開始(オリエンテーション、オンライン個別面談等)
- ・8月 フォローアップ、フィールドワーク合宿
- ・9月 プロトタイプ作り込み、進捗共有会、中間報告会、オンライン個別面談
- ・10月 プロトタイプ作り込み加速、成果報告会準備、成果報告会

〈アドバンストコース〉

- ・10-11月 参加申込、参加者決定
- ・12月 活動開始(オリエンテーション、導入プログラム)
- ・1-2月 集中プログラム(先輩起業家相談会)、フォローアップ
- ・3月 成果報告会



初期プロトタイプの共有
(合宿にて)



スターティングコース
成果報告会



アドバンストコース
成果報告会

専攻科 創造工学専攻

特色

本校の専攻科（大学の学士過程に相当）では、機械工学、電気電子工学、情報工学の三つの学位分野で高度な専門知識及び技術を教授し、国際社会における問題解決能力の育成を行います。また、科学的知識と技術力を基に、リーダーとしての資質・能力を養います。修了生は、特例適用認定専攻科の修了審査に合格することで、大学改革支援・学位授与機構より学士（工学）の学位が授与され、大学院への受験資格を得ることができます。

各コースの特色

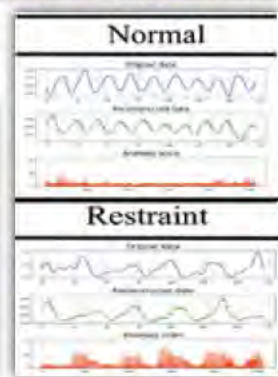
創造システム工学プログラム 機械工学分野（荒川キャンパス）

機械工学分野では、4力という材料力学、流体力学、熱力学、機械力学に加え、生産・加工学、材料学などの基盤技術を学びます。これらの基盤技術を修得し、研究活動やエンジニアリングデザイン教育などの創造性を育むプログラムを通じて、ロボット、航空宇宙、自動車、環境・エネルギーなど幅広い先端技術分野で活躍できる創造性豊かな技術者を育成します。この分野には機械工学コースと航空宇宙工学コースが含まれており、取得できる学位は機械工学となります。



創造システム工学プログラム 電気電子工学分野（荒川キャンパス）

高度にグローバル化した現代においては、以前にも増して電気電子工学が果たす役割が高まっています。特に Society5.0 を支える IoT やデータサイエンス分野を含み、情報と電気電子分野を横断した教育が必要不可欠です。本コースでは、情報・信号処理、通信技術、電気・電子回路、計測・制御などを学び、AI・情報システム、次世代通信、医療福祉機器などの応用開発が可能な研究力を培います。更にはエンジニアリングデザインを通じて、柔軟な発想力に基づく高度な製品開発が可能な技術者を養成します。



機械工学プログラム 機械工学分野（品川キャンパス）

近年の科学技術の発展に伴い、例えば、現実空間で、知覚・判断・行動を行う「フィジカル AI」の発展により、ロボット、自律移動システム、スマートマニュファクチャリングのような新しい技術分野が誕生するなど、機械工学の包括する分野は更に広範囲にわたり、機械工学を学んだ科学技術者に対する期待は極めて大きいと言えます。本プログラムでは機械工学の基盤となる専門知識と、ものづくりの総合的技術・技能に関する実践的応用力を有し、問題発見・分析・解決能力を発揮して、産業界のニーズに的確に応え国際的に活躍する機械技術者を育成します。



電気電子工学プログラム 電気電子工学分野（品川キャンパス）

地球温暖化問題を解決するためにカーボンニュートラルの実現が求められています。そのためには環境負荷の小さなクリーンエネルギーの活用と、超高効率なエネルギー利用などグリーンデジタル技術が必要不可欠です。グリーンデジタル技術は電気電子工学なしでは成り立つことはできません。電気電子工学プログラムではカーボンニュートラルを実現する技術として環境エネルギー、エレクトロニクス、情報通信、制御システムを修得するとともに、専門分野の異なる他者と協働してグローバルな課題の解決に貢献できる高度なものづくり技術者を育成します。



情報工学プログラム 情報工学分野（品川キャンパス）

情報システムは、重要な社会基盤の1つです。これらの情報システムを支えるためには、情報学および数理情報の基礎知識、およびこれら基礎知識を活用する能力が必要です。すなわち、コンピュータ・サイエンスに関する基礎力および実践力が必須です。情報工学プログラムでは、コンピュータ・サイエンスに関する基礎力・実践力を有し、次世代の情報システムを牽引する技術者を育成します。



本校は2021年度、JABEEの「技術者教育プログラム」の認定審査を受審し、2022年3月3日付で日本技術者教育認定基準に適合していると認められました。そのため、専攻科を修了することにより、JABEE認定プログラム修了者としても認められ、技術士の第一次試験が免除されます。

キャンパスライフ 1年間の行事

4月	■入学式 ■始業式 ■1年生ガイダンス・オリエンテーション(品川・荒川) ■定期健康診断 ■保護者会(品川・荒川)
5月	■2年生校外教室(品川) ■体育祭(品川・荒川)
6月	■前期中間試験 ■保護者会(品川) ■公開授業(品川) ■関東信越地区高専体育大会
7月	■関東信越地区高専体育大会 ■前期期末試験 ■公開授業(荒川)
8月	■前期期末試験 ■全国高専体育大会 ■クラブ夏季合宿 ■インターンシップ(4年生、専攻科) ■関東信越地区高専文化発表会 ■夏休み
9月	■夏休み ■夏季集中授業 ■国際ナショナル・エデュケーション・プログラム ■グローバル・コミュニケーション・プログラム ■後期授業開始 ■高専ロボットコンテスト関東甲信越地区大会
10月	■保護者会(品川・荒川) ■公開授業(品川) ■1年生校外学習(荒川) ■2、3、5年生工場見学(荒川) ■文化祭(産技祭・高専祭) ■高専プログラミングコンテスト全国大会
11月	■1、3年生校外教室(品川) ■2年生校外学習(荒川) ■3年生文化行事(荒川) ■4年生校外研修(品川・荒川) ■関東高専体育大会 ■関東信越地区高専英語弁論大会 ■公開授業(荒川) ■高専ロボットコンテスト全国大会 ■後期中間試験(品川)
12月	■全国高専デザインコンペティション ■後期中間試験(荒川) ■冬休み
1月	■冬休み
2月	■専攻科特別研究Ⅰ審査会 ■専攻科特別研究Ⅱ審査会 ■後期期末試験
3月	■卒業研究審査会 ■卒業式 ■専攻科修了式 ■終業式 ■クラブ春季合宿 ■春休み



入学式



関東信越地区高専体育大会



高専祭(荒川)



産技祭(品川)



卒業式

クラブ・同好会

クラブ・同好会一覧 (2026 年 4 月現在)

品川キャンパス

運動系	陸上競技部	サッカー部	軟式野球部	ラグビー部	バスケットボール部
	バレーボール部	バドミントン部	卓球部	柔道部	剣道部
	テニス部	ソフトテニス部	水泳部	弓道部	ダンス同好会
	トレーニング同好会				
文化系	吹奏楽部	茶道部	写真部	英語研究部	映像研究会
	軽音楽同好会	現代視覚文化研究会	謎研同好会	地形分科会	合唱同好会
	卓上遊戯研究同好会	モバゲー同好会			
技術系	電気通信部	高専ロボコン研究部	ロボカップ研究部	省エネカー研究部	プログラミング研究部
	高専デザコン研究部	モデリング研究同好会	模型同好会	DCON 同好会	鉄道研究会

荒川キャンパス

運動系	陸上競技部	サッカー部	軟式野球部	バスケットボール部	バドミントン部
	バレーボール部	卓球部	柔道部	剣道部	テニス部
	水泳部	ソフトテニス部	フットサル部	ワンダーフォーゲル部	ダンス同好会
	ボルダリング同好会	スキー同好会			
文化系	音楽部	奇術部	吹奏楽部	民謡研究部	茶華道部
	アナログゲーム同好会	創作活動同好会	折り紙同好会	数学クラブ	サブカルチャー同好会
	戦術研究同好会				
技術系	航空工作部	人力飛行機研究部	電気通信部	応用物理研究部	海洋環境研究部
	自転車整備部	航空機整備同好会	鉄道ジオラマ部	ロボット研究同好会	宇宙研究同好会

2025 年度活動実績

体育大会

関東信越地区高専体育大会は、関東信越地区の 10 高専の競技大会で、団体戦は優勝および準優勝校が、個人戦は種目の優勝者等が全国高専体育大会に出場できます。

品川キャンパス

●全国大会

全国高等専門学校体育大会	陸上競技部	女子円盤投	7 位
	柔道部	男子個人戦 66kg 級	ベスト 16
	水泳部	男子 200 m 個人メドレー	決勝 7 位

●地区大会

関東信越地区 高等専門学校 体育大会	陸上競技部	女子円盤投	第 2 位	全国大会出場
		男子高跳	第 3 位	全国大会出場
	硬式野球部	男子	第 3 位	
	バレーボール部	男子	第 3 位	
	柔道部	男子団体戦	第 2 位	全国大会出場
		男子個人戦 81kg 級	第 2 位	全国大会出場
		男子個人戦 81kg 級	第 3 位	
		男子個人戦 66kg 級	第 1 位	全国大会出場
	テニス部	女子ダブルス	第 3 位	
		男子 200m 個人メドレー	優勝	全国大会出場
	水泳部	男子 100m 自由形	第 2 位	全国大会出場

荒川キャンパス

●全国大会

全国高等専門学校体育大会	水泳部	女子 50m 自由形	7 位
--------------	-----	------------	-----

●地区大会

関東信越地区 高等専門学校 体育大会	陸上部	女子砲丸投げ	3 位	
		男子 100 m	決勝進出	
	水泳部	男子 4x100m リレー	3 位	
		女子 50m 自由形	優勝	全国大会出場
		女子 100m 自由形	3 位	
	バレーボール部	男子	3 位	
	バスケ部	男子	3 位	
	テニス部	男子シングルス	ベスト 8	
	卓球部	男子シングルス	3 位	
		男子シングルス	3 位	
	バドミントン部	女子団体	3 位	
		女子ダブルス	3 位	
	柔道部	男子団体	優勝	全国大会出場
		男子個人 73kg 超級	優勝	全国大会出場
	剣道部	男子個人 73kg 超級	3 位	全国大会出場

コンテスト

品川キャンパス

NEST ロボコン 2025 ワールドクラスサッカーライトウェイト 優勝、準優勝、得点王、 ベストプレゼンテーション賞
ロボカップジュニア 2026 関東ブロック大会 ワールドクラスサッカーライトウェイト 優勝、プレゼンポスター賞 ワールドクラスレスキューライン 3 位 ワールドクラスレスキューメイズ 3 位
ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2026 愛知 ワールドクラスサッカーライトウェイト 2 位 (世界大会出場)
全国高等専門学校ロボットコンテスト 2025 関東甲信越地区大会 品川キャンパス A チーム 特別賞
第 15 回ビジネス創造コンテスト区民枠 [中学生・高校生の部] 最優秀賞

荒川キャンパス

全国高等専門学校ロボットコンテスト 2025 関東甲信越地区大会 荒川キャンパス A チーム 特別賞 (本田技研工業株式会社) B チーム 準優勝 (全国大会出場)
全国高等専門学校ロボットコンテスト全国大会 準決勝進出
First Lego League Challenge 1st Place Robot Design 受賞
第 13 回全国高等学校鉄道模型コンテスト モジュール部門 奨励賞
鳥人間コンテスト 2024 滑空機部門 記録 52.88 m
東京大学吹奏楽コンクール 任意編成部門 銀賞受賞
第 21 回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト 自動操縦部門 第 1 位 一般部門 特別賞、ベストプレゼンテーション賞受賞
第 35 回全国高等学校アマチュア無線コンテスト 430MHz 部門 奨励賞
第 58 回全日本新人ボウリング選手権大会 少年男子の部 第 6 位

主な取組・学生支援

● 情報化の推進

本校では、社会・産業界の ICT 化進展の中で活躍できるものづくりスペシャリスト・実践的技術者の育成を目指し、様々な情報化の取組を進めてきました。これらの取組をより体系的かつ強力に推進するため、2012 年度に情報化推進センターを設置しました。情報化推進センターでは、情報機器を用いた教育手法の検討と開発、データベースを用いた校務状況の一元化（校務支援システム）などによる校務の効率化の推進、情報管理体制の整備などを進めています。

校務支援システムにより学生の学習状況をサポートするために履修状況の確認や授業アンケート等も Web 上で行えるようになっていました。Google Classroom や Microsoft Teams を利用して各学年のクラス運営や学内のペーパーレス化を推進し、学内団体との連絡にも活用しています。さらに、BYOD 化やクラウド利用を推進し、自己学習環境の整備および Web 授業の整備を行っています。

● 学生相談

学生様の様々な悩みごとや困りごとに対しては、学生相談室が中心となり、学級担任・教科担当・卒研担当・クラブ顧問・学生室・キャリア支援センター（就職・進学）などが対応し、学生が快適な学校生活を送るための支援に努めています。学生相談は臨床心理士であるスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーと、担当教員・看護師が対応しています。



カウンセラーの大澤昇先生

スクールカウンセラー及び、スクールソーシャルワーカーは原則として週 2～3 回来校し、心の悩みや友人・家族関係のトラブル等、家庭や社会的な問題の相談に応じ、問題解決の糸口をとともに探し出すことに努めています。なお、相談はオンラインでも対応しています。

相談日時の予約は、随時保健室で受付けており、保護者からの予約も受付けています。

また、精神科医のサポートが受けられる体制を作ると共に、両キャンパスに多角的な視点から助言が可能となるよう複数名のカウンセラーを置いて学生相談体制の強化を図っています。

● 運営協力者会議

2010 年 10 月、本校の諸活動について、学校外から広く意見を聴取し、産業界のニーズに合っているか等を定期的に検証するとともに、学校運営に活かしていくため、運営協力者会議を設置しました。この会議の役割は、校長から提起する問題に対する提言と本校の諸活動（教育・研究・産学連携・地域貢献・校務運営等）に対する評価です。会議の構成員は、企業の経営者や管理者、行政関係者、教育関係の有識者の 10 名程度としています。

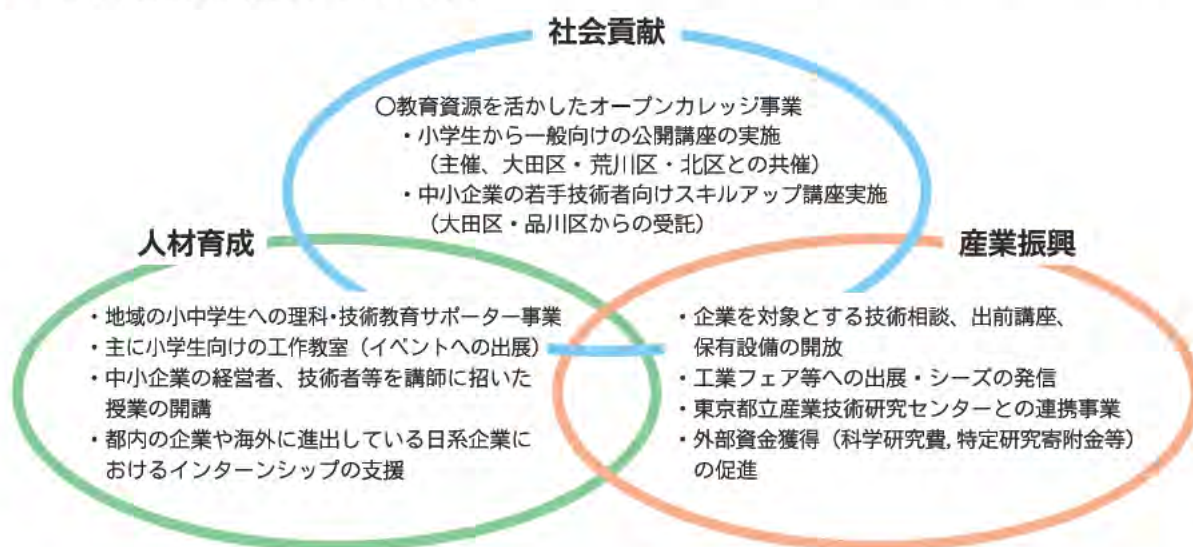


運営協力者会議の様子

2025 年度の会議では、活動状況および各種取組、高等専門学校機関別認証評価、荒川キャンパスにおける副業先生の実施の 3 点についてとりあげ、運営協力者の方々から多くの貴重なご意見をいただきました。

● 地域連携

本校の地域連携活動事業では、人材育成、社会貢献、産業振興の3つの柱を立てて、産学公連携・社会貢献活動を推進していきます。



若手技術者支援のための基礎講座



理科・技術サポーター事業

● 国際化の推進

本校は、国際的な環境で活躍できる技術者の育成を目的として、学生の国際化、教員の国際化、教育環境の国際化を推進するため、2012年度に国際化推進センターを設置しました。それ以後、2大学1高専の学生で編成されたチームがシンガポールで課題解決に挑む「グローバル・コミュニケーション・プログラム（GCP）」、シンガポールの日系企業等で職場体験を行う「海外インターンシッププログラム」（2017年度より休止中）、米国シアトルで語学研修やホームステイなどを行う「グローバルエンジニア育成プログラム」の3つの海外派遣プログラムを実施するとともに、国内プログラムとして、低学年のHRに留学生を招いて交流する「異文化理解プログラム（留学生が先生）」、海外協定校であるニース・ポリテクニク（シンガポール）の学生を日本に招いて交流を行う「学生国際交流プログラム」などを実施し、国際化に取り組んできました。2017年度からは社会の要請が強い実践的能力を備えた人材の育成を資するため、海外派遣プログラムについて、新たに企業課題の要素を取り入れたグローバル・コミュニケーション・プログラム（GCP）と米国シアトルの企業見学や語学研修などを行うインターナショナル・エデュケーション・プログラム（IEP）の2つのプログラムへ再編を行いました。

【2025 年度 主な海外派遣プログラム】

(1) 令和7年度インターナショナル・エデュケーション・プログラム (IEP)

- ① 海外派遣先：アメリカ合衆国 シアトル
- ② 海外派遣期間：
9月4日（木）から9月13日（土）（10日間）
- ③ 参加人数：40名
- ④ 実施内容：国内における事前学習／現地でのホームステイ、語学研修、先端企業（ボーイング、マイクロソフト等）の工場や施設見学、事後研修（最終報告会での英語プレゼンテーション）、現地学生との交流等



(2) 第13回グローバル・コミュニケーション・プログラム (GCP)

- ① 海外派遣先：シンガポール共和国
- ② 海外派遣期間：
9月2日（火）から9月10日（水）（9日間）
- ③ 参加人数：36名 ※リーダー含む
- ④ 実施内容：
 - ・国内での事前学習（3月～8月）
リーダー研修、全体研修（月1回程度）、課題学習（リーダー指導のもと各チームの学習テーマ（課題）に応じた調査、課題の分析等）、英語学習（日常会話研修、英語プレゼンテーション研修）、国内合宿（2泊3日）、TOEIC受検
 - ・海外プログラム（9月）
チーム毎のフィールドワーク、現地学生交流、現地企業等訪問、英語によるプレゼンテーション
 - ・国内での事後学習（10月、11月）：最終報告会での英語による発表、TOEIC受検、振り返り



● キャリア支援

低学年から始まる キャリアデザイン サポート

本校では学生の皆さん1人ひとりがキャリアをデザインし、希望の進路選択を行うことができるように、低学年から様々な行事や講座を用意しています。5年間を通して専門性と人間力を培うことで、毎年安定した就職内定率・大学進学率を維持しています。

● キャリア支援プログラム

	1・2年生 将来の自分をイメージする	3年生 進路選択の基礎づくり	4年生 就職力・進学力の育成	5年生 就職・進学活動
学校行事	オリエンテーション(1年) コース説明会(1年) コースガイダンス(2年) 校外学習(2年)	校外学習	コースガイダンス 校外研修	
キャリア支援	キャリア通信	進路ガイダンス キャリア支援講座 キャリア通信 OB・OG懇談会	進路ガイダンス 支援講座 社会人マナー・業種職種の研究・自己分析 スキルアップ講座 応募書類作成・面接対策・就職ガイダンス・大学ガイダンス・大学入試説明会・企業説明会 インターンシップ支援 ガイダンス・企業説明会・保険説明会・直前指導・報告会 キャリア通信 OB・OG懇談会	就職支援 キャリアカウンセリング エントリーシート・面接指導 進学支援 入試対策指導・願書指導・面接指導
学生各自	資格取得(2～5年)	TOEIC	TOEIC SPI	
保護者		進路説明会	進路説明会	

● キャリア支援センターの活動

本校では、平成26年度から進路支援室とインターンシップ室が統合され、就職支援・進学支援・インターンシップ支援を一括運営するキャリア支援センターが設置されました。その後、キャリア・カウンセリングの拡充やキャリア講座の運営、女子学生向け支援講座などが実施され、教育効果の高いキャリア教育を推進してきた結果、本校学生の良好な就職内定率、国公立大学中心に多くの大学編入学実績をあげています。特に第4学年のインターンシップ(選択科目)、専攻科のインターンシップ(必修科目)に力をいれ、多くの学生が就業体験・研究者体験をすることにより、進路選択の重要な指針となっています。キャリア支援センターでは両キャンパスのインターンシップ担当が事前・事後指導、報告会を開催し、就職・進学支援の橋渡しをしています。

カーボンニュートラル / SDGs への取組

東京都公立大学法人は、2021年7月に日本の国公立大学としては初となる「気候非常事態宣言」を発出し、さらに2024年7月には、同じく日本の国公立大学として初めて「ネイチャーポジティブ宣言」を発出しました。

本校でも、学生、教職員によるカーボンニュートラル / SDGs など、環境に配慮した取組が少しずつ広がってきていますので、活動の一部を紹介します。

なお、東京都公立大学法人の取組につきましては、「東京都公立大学法人 環境報告書 2025」をご覧ください。

https://www.houjin-tmu.ac.jp/sustainability_files/environmental_report_2025/



「電気電子エネルギー工学コース」の紹介

電気電子エネルギー工学コース / 電気電子工学コース 石橋 正基 教授

本校では、ゼロエミッション東京戦略の実現に向け、社会の発展と持続のために技術革新に挑戦し続けるグリーンデジタル人材の育成を行うため、2025年度に、「電気電子工学コース※」を「電気電子エネルギー工学コース」として再編しました。コース再編に携わられた石橋先生に、その背景から未来の展望までお話を伺いました。

※ 2024年度以前に入学した学生は「電気電子工学コース」所属となります。

環境に配慮した教育・学生

【脱炭素社会を担う未来の技術者を育成】

電気電子工学コースのリニューアルは、社会的な潮流である脱炭素やカーボンニュートラルへの対応が不可欠であると判断されたことがきっかけです。特に、二酸化炭素排出の主要な要因である電力部門において、技術的貢献が求められていることも背景にあります。従来の電気電子技術を基礎としつつ、未来のエネルギーを担う人材を育成することにシフトするため、コース名は「電気電子エネルギー工学コース」へと変更しました。エネルギーを「へらす」「つくる」「ためる」に貢献できる人材の育成を目指していきます。

【チームで創り出す実践的な学び】

本コースのカリキュラムは、低学年で電気電子情報に関する基礎技術を積み上げ、高学年では環境負荷低減のためのエネルギー技術やそれを実現するために必要不可欠なデジタル技術を学びます。また、「他者と共同して学ぶ」授業を導入します。これは、エネルギー分野において多様な専門分野の人々が協力して新たなものを生み出す必要があるためです。特に目玉となるのが、新設された「システム設計製作」の授業です。学生がチームを組み、エネルギー関連の技術的な解決策を考案し、実際に製作を行います。

その一環として、学内に太陽光発電を設置し、そこで発電した電力の運用方法の検討を行うことを授業に取り入れています。このような実践的な学びを強化するため、企業の協力を得て、学生のアイデアを商品開発に活用してもらうことも視野に入れています。このコースで学ぶ学生には、将来カーボンニュートラルをコアとしたエネルギー関連企業での活躍を期待しています。

このコースで学ぶことの面白さは、ものづくりを強化し、チームで共同作業を行う点にあります。電気は光や音、動きを実現するエネルギー源であり、これを適切に制御する電気・電子回路を自在に設計、製作するための知識やスキルを身につけることができます。ものづくりが苦手な学生もいますが、試行錯誤を繰り返し自分に合ったやり方を見つけ、他者に助けを求め仲間と協力することで、諦めずにやり遂げる力を身につけてほしいと考えています。また、低学年からデザインシンキングを学ぶことで、社会に出た際に即戦力となるようなアイデアの出し方や問題解決の考え方を習得できます。



屋上に設置した太陽光発電システム

○ 学生へのメッセージ ○

このコースでは、電気電子の幅広い基礎知識を学び、それを活かしながら持続可能な社会に貢献できる技術者を育成します。エネルギー問題だけでなく、ロボットや電車、自動車、通信、医療、エンターテインメントなど、様々な分野で技術的に活躍できる人材を目指せるのが強みです。特に、手を動かして何かを作ることが得意な学生や、環境問題に関心があり、社会課題に広く貢献したいと考えている学生には、実りのある学生生活を送れると思います。専門的な知識を深め、実践的な技術を習得することで、将来のキャリアの選択肢が広がると考えています。

令和6年度「知事と議論する会」～「カーボンニュートラル貢献ゲーム」の提案～

「ゼロエミッションナリーズ」 大河原悠真、関口丞、中西郷、那波郁磨、松原弘太朗、本橋広湧、山西沙来
電気電子エネルギー工学コース／電気電子工学コース 石崎 明男 准教授

2024年12月26日に小池都知事と高校生がゼロエミッションの実現に向けて議論する「知事と議論する会」が開催され、電気電子工学コース3年生7名で結成されたチームが「ゼロエミッションナリーズ」として参加しました。参加にあたって指導された石崎先生に同席いただき、参加した学生にお話を伺いました。

私たちは電気やエネルギーについて学んでいますが、Webなどで調査を行い、都民のカーボンニュートラルへの意識の低さと家庭内でのエネルギー消費の高さに大きな課題があると感じました。そこで、その対策として、まずは若者世代の意識改革を目指し、「カーボンニュートラル貢献ゲーム」を提案しました。これは、スマートメーターからの情報を活用し、日常的な環境貢献活動をゲーム化するというもので、住民の活動に応じて成長するキャラクターを地域ごとに設定することや、活動のインセンティブとして、地域の公共施設整備に使える「エネコイン」と、個人で使える「eポイント」という2種類のポイント還元システムなどを考案しました。

12月のゴールを目指し7月頃からチームで議論を重ねる中で、時には意見の衝突もありましたが、互いの考えを尊重することで、より良い提案を作り上げることができ、大きな手応えを感じました。その結果として、小池都知事からは「ゲーム化するという発想は素晴らしい」との評価をいただくことができました。

私たちは、今回の提案が社会全体に波及することを期待しています。将来的に、例えば東京都がこのゲームを都内の学校などに広げることで、若者の環境に関するリテラシーが向上し、その結果、社会全体でゼロエミッションに取り組めるようになれば素晴らしいと考えています。

本校には、学生が自由に校外のイベントに参加できる風土があり、またひとつのことを深く掘り下げ、専門性を追求できる環境が整っています。さまざまなことにチャレンジしたい人にはピッタリな学校だと思っていますので、ぜひ本校のホームページ等もご覧ください！



チーム「ゼロエミッションナリーズ」

ペットボトルキャップの回収活動 <荒川キャンパス>

荒川キャンパスでは2023年から、環境整備委員会が主導してペットボトルキャップの回収活動を行っています。

ごみの混入を防ぐため、一般のごみ箱から離し、人通りの多いエレベーターホールに専用の回収袋を設置したことで、これまでに9,000個以上のキャップを回収しました。これにより、CO2排出量を約65kg以上削減しました。

この活動は、文化祭での呼びかけや授業公開週間で保護者の協力を得るなど、着実に広がりを見せています。学生からは「毎日の小さな行動が社会貢献につながっている」という声も聞かれ、環境意識を高めるきっかけになっています。

回収されたキャップは、エコキャップ推進協会を通じて再生プラスチック原料として換金され、医療支援、障がい者支援、環境教育といった多様な社会貢献活動に役立てられています。



回収されたエコキャップ



図書館

品川キャンパス図書館・荒川キャンパス図書館の2館で構成され、本校の学習・教育・研究を支援するために相互に協力してサービスを提供しています。

蔵書数は2館合わせて約15万冊であり、工学系の専門書のほか、一般教養に役立つ図書や雑誌を備えています。これらの蔵書の情報は、自宅からもインターネットを通じて検索が可能です。

また、地域貢献のため、都内または近郊地域に在勤の技術者、都内または近隣地域に在学あるいは在住の中学生・高校生を対象として、図書館開放を行っています。



品川キャンパス



荒川キャンパス

科学技術展示館（荒川キャンパス）

都立航空工業高等専門学校の頃から教材として使用されてきた飛行機、ヘリコプター、航空用エンジンなどの実物を含め、人工衛星のミニチュア模型、NHK ロボットコンテスト出場ロボットなど、教育的、歴史的に価値のある各種工学機器類を展示・保存しています。航空機関係の展示物においては、わが国でも有数のコレクションであり、日本航空協会から“戦後航空再開時の国産航空機群”として重要航空遺産の認定を受けています。

展示物は教材として利用するほか、一般に公開しています。



資料編

～ DATA BOOK ～

目次

学生の状況	36
定数及び現員	36
入学志願状況	36
進路状況	37
本科	37
専攻科	39
教職職員組織	40
教員一覧	40
非常勤講師一覧	42
歴代校長	43
教職員数	43
組織図	44
校務執行体制	45
教育研究活動	46
教育改善研究費による研究活動実績	46
特定課題研究費による研究活動実績	46
外部資金による活動実績	47
開放事業	48
主な取組・学生支援の実績	50
施設情報	51
施設の概要・学校配置図	52
品川キャンパス	52
荒川キャンパス	53
沿革	54

学生の状況

定数及び現員

2026年5月1日現在

本科

(人)

	定員	品川キャンパス					荒川キャンパス					合計
		1組	2組	3組	4組	小計	5組	6組	7組	8組	小計	
ものづくり工学科 1年	320	43	42	43	42	170	41	40	41	40	162	332

(人)

	定員	品川キャンパス					荒川キャンパス					合計
		コース				小計	コース				小計	
		機 械 システム	AI スマート	電気電子／ 電気電子 エネルギー	情 報 システム		情報通信	ロボット	航空宇宙	医療福祉		
ものづくり工学科 2 年	320	38	44	42	43	167	41	43	43	42	169	336
〃 3 年	320	40	41	39	38	158	34	40	45	41	160	318
〃 4 年	320	36	38	43	40	157	44	37	37	42	160	317
〃 4 年	320	40	28	38	40	146	30	38	29	38	135	281
ものづくり工学科	1,600	品川キャンパス 計				798	荒川キャンパス計				786	1,584

専攻科

(名)

	定員	現員	合計
創造工学専攻 1年	32	36	71
創造工学専攻 2年	32	35	

入学志願状況

本科

(人・倍)

	2026		2025		2024		2023		2022	
	学力選抜	推薦選抜	学力選抜	推薦選抜	学力選抜	推薦選抜	学力選抜	推薦選抜	学力選抜	推薦選抜
志願者数	361	161	351	143	377	138	444	141	439	141
募集人員	224	96	224	96	224	96	256	64	256	64
倍率	1.61	1.68	1.57	1.49	1.68	1.44	1.73	2.20	1.71	2.20

専攻科

(人・倍)

	2026		2025		2024		2023		2022	
	学力選抜	推薦選抜	学力選抜	推薦選抜	学力選抜	推薦選抜	学力選抜	推薦選抜	学力選抜	推薦選抜
志願者数	44	23	66	10	78	15	75	13	66	16
募集人員	9	25	22	25	17	25	20	25	16	25
倍率	4.89	0.92	3.00	0.40	4.59	0.60	3.75	0.52	4.13	0.64

進路状況

本科

卒業生の進路 (2026年5月1日現在)

(人)

	教育コース	性別	2025				2024			
			卒業者数	就職者数	進学者数	その他	卒業者数	就職者数	進学者数	その他
品川 キャンパス	機械システム工学コース	男	33	18	14	1	33	21	9	3
		女	4	3	1	0	6	2	4	0
	AIスマート工学コース ^{*1}	男	24	10	13	1	18	6	8	4
		女	6	2	4	0	2	0	1	1
	電気電子工学コース	男	24	8	15	1	31	12	19	0
		女	7	6	1	0	5	2	3	0
	情報システム工学コース ^{*2}	男	28	13	13	2	33	23	10	0
		女	7	4	2	1	6	1	3	2
荒川 キャンパス	情報通信工学コース	男	38	22	16	0	32	13	19	0
		女	0	0	0	0	4	4	0	0
	ロボット工学コース	男	34	22	11	1	31	15	10	6
		女	3	3	0	0	5	2	3	0
	航空宇宙工学コース	男	28	24	4	0	33	26	6	1
		女	5	2	3	0	6	5	1	0
	医療福祉工学コース	男	32	17	14	1	36	21	13	2
		女	11	7	4	0	9	6	3	0
計			284	161	115	8	290	159	112	19

*1：2024年度は生産システム工学コース

*2：2024年度は電子情報工学コース

2025年度 求人状況

	就職希望者数 (人)	求人企業数 (社)
ものづくり工学科	161	1,440

2025年度 就職実績状況 (2026年5月1日現在) 順不同

		教育コース	企 業 名
ものづくり工学科	品川キャンパス	機械システム工学コース	大成建設(株)、ナブコシステム(株)、ナブコシステム(株)東京営業本部、出光興産(株)、(株)加藤製作所、(株)上島熱処理工業所、カヤバ(株)、キヤノン(株)、TOPPAN(株)、TONE(株)、ファナック(株)、フジテック(株)、雪印メグミルク(株)、ライオン(株)、レンゴー(株)、レンゴー(株)葛飾工場、東京都下水道サービス(株)、東海旅客鉄道(株)(車両・機械系統)、三菱地所プロパティマネジメント(株)、東京水道(株)、東京都
		AIスマート工学コース	(株)IHIインフラシステム、ダイキン工業(株)、パナソニックコネクト(株)、アルカディア(株)、ソフトバンク(株)、西日本電信電話(株)、キヤノンマーケティングジャパン(株)、京セラドキュメントソリューションズジャパン(株)、協立ソリューションズ(株)、SUBARUテクノ(株)、(株)アルテクス、THK(株)
		電気電子工学コース	日本電技(株)、花王(株)、(株)TMEIC、日産自動車(株)、日本たばこ産業(株)、富士電機(株)、三菱ガス化学(株)、三菱電機ディフェンス&スペーステクノロジーズ(株)、(株)JERA、(株)アイ・エス・ビー、伊藤忠テクノソリューションズ(株)、(株)フォーエス、エクシオ・デジタルソリューションズ(株)、(一財)日本品質保証機構
		情報システム工学コース	三井共同建設コンサルタント(株)、アールシーソリューション(株)、(株)アルファシステムズ、NECソリューションイノベータ(株)、(株)エヌ・ティ・ティ エムイー、(株)NTTドコモ、(株)サイバーエージェント、Sansan(株)、CTCテクノロジー(株)、ソフトバンク(株)、日本電気通信システム(株)、日本ビジネスシステムズ(株)、フラール(株)、(株)FlattSecurity、レンジャーシステムズ(株)、(株)セガ・フェイブ、NECフィールディング(株)
	荒川キャンパス	情報通信工学コース	エクシオグループ(株)、日本通信エンジニアリングサービス(株)、APRESIA Systems(株)、宝酒造(株)松戸工場、(株)日立ハイテック、本田技研工業(株)、(株)明電舎、中部電力(株)、東京電力ホールディングス(株)、アイ・システム(株)、(株)インフォコム東日本、AJS(株)、NECネットエスアイ(株)、日本フィールド・エンジニアリング(株)、東海旅客鉄道(株)、東日本旅客鉄道(株)、SUBARUテクノ(株)、(株)日産オートモーティブテクノロジー
		ロボット工学コース	室内装飾恵美、(株)ニチボウ、小倉クラッチ(株)、花王(株)、(株)ジャノメ、ダイキン工業(株)、DMG森精機(株)、東京エレクトロングループ、ニューロング精密工業(株)、パナソニックコネクト(株)、(株)浜野製作所、フジテック(株)、富士フイルムオプティクス(株)、ミネベアミツミ(株)、(株)JERA、東京ガスネットワーク(株)、東京都下水道サービス(株)、成田空港給油施設(株)、東京海上日動調査サービス(株)、(株)アビリカ、SOLIZE(株)、日信電子サービス(株)、横河ソリューションサービス(株)、(独)国立印刷局
		航空宇宙工学コース	三菱電機ビルソリューションズ(株)、(株)IHI、川崎重工業(株)、サントリーホールディングス(株)、新明和工業(株)、(株)SUBARU航空宇宙カンパニー、東レ・カーボンマジック(株)、日立建機(株)、マブチモーター(株)、三菱重工業(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、(株)LIXIL、(株)J E R A、東京ガスネットワーク(株)、ANAベースメンテナンステクニクス(株)、ANAラインメンテナンステクニクス(株)、(株)JALエンジニアリング、東海旅客鉄道(株)、東急電鉄(株)、三菱地所プロパティマネジメント(株)、東京水道(株)、日揮グローバル(株)
		医療福祉工学コース	エクシオグループ(株)、IHI 運搬機械(株)、アイリスオーヤマ(株)、旭化成(株)、(株)川島製作所、(株)クボタ筑波工場、(株)河野製作所、シチズン時計マニュファクチャリング(株)、第一三共(株)、中外製薬工業(株)、パナソニック(株)、ファナック(株)、富士フイルム(株)、マブチモーター(株)、三菱ガス化学(株)、(株)LIXIL、リンテック(株)伊奈テクノロジーセンター、東京電力ホールディングス(株)、東京ガスネットワーク(株)、富士フイルムビジネスイノベーションジャパン(株)

過去 3 年間の大学編入・専攻科進学状況（2026年 5 月 1 日現在） 順不同

(人)

年度	都立大	長岡技大	豊橋技大	千葉大	農工大	電通大	電機大	産技高専 専攻科	その他(内訳)
2025	12	10	11	3	3	2	2	37	弘前大1 金沢大2 神戸大1 香川大1 九州工業大1 室蘭工業大1 横浜国立大1 筑波大2 東京海洋大1 名古屋大1 九州大1 東京科学大3 公立諏訪東京理科大1 高崎経済大1 前橋工科大1 東京都市大3 千葉工業大4 東京理科大1 東京医療保健大1 創価大1 関東学院大1 帝京科学大2 敬愛大1 (計33)
2024	13	12	6	3	5	3	1	33	東京科学大(東京工業大)4 新潟大2 九州工業大2 お茶の水女子大2 北海道大1 福島大1 東北大1 東京大1 筑波大1 静岡大1 信州大1 埼玉大1 広島大1 京都大1 岐阜大1 岡山1 横浜国立大1 東京理科大3 東京都市大2 立命館大1 武蔵野美術大1 工学院大1
2023	12	22	3	2	9	0	2	36	北海道大1 室蘭工業大1 弘前大1 秋田大1 東北大1 東京大2 東京海洋大1 信州大5 岐阜大1 筑波大1 東京医歯大1 お茶の水女子大1 福井大1 三重大1 大阪大1 九州大1 日大3 千葉工大3 東京都市大2 工学院大1 法政大2 早稲田大2 大阪芸大1 デジタルハリウッド大1

専攻科

修了生の進路（2026年 5 月 1 日現在）

(人)

	年度	性別	修了者数	就職者数			進学者数			その他
				就 職	公務員	計	大学院	その他	計	
創造工学専攻	2025	男	29	18	0	18	11	0	11	0
		女	3	1	0	1	2	0	2	0
		計	32	19	0	19	13	0	13	0
	2024	男	32	16	0	16	15	0	15	1
		女	3	1	0	1	2	0	2	0
		計	35	17	0	17	17	0	17	1

2025 年度 就職・進学実績状況（2026年 5 月 1 日現在） 順不同

就職先

(人)

企 業 名	就職者数
SMC(株)	2
ジー・オー・ピー(株)	2
ダイキン工業(株)	1
ジャパンマリンユナイテッド(株)	1
(株)日立ビルシステム	1
日野自動車(株)	1
マブチモーター(株)	1
森ビル(株)	1
本田技研工業(株)	1
三菱電機プラントエンジニアリング(株)	1
(株)ヒダン	1
(株)湯山製作所	1
(株)ドワンゴ	1
(株)オプティム	1
セコムトラストシステムズ(株)	1
合同会社A z u x	1
(株)AGEST	1
合 計	19

進学先

(人)

進 学 先	進学者数
電気通信大学 大学院	2
豊橋技術科学大学 大学院	2
奈良先端科学技術大学院大学	2
産業技術大学院大学	1
東京都立大学 大学院	1
東京大学 大学院	1
筑波大学 大学院	1
宇都宮大学 大学院	1
芝浦工業大学 大学院	1
東京電機大学 大学院	1
合 計	13

教職員組織

教員一覧

品川キャンパス

2026年5月1日現在

職	氏名	本科教育コース（本務）	専攻科（兼務）
教授	池田 宏	一般科目	専攻科 創造工学専攻
教授	海上 順代	一般科目	専攻科 創造工学専攻
教授	澤田 一成	一般科目	専攻科 創造工学専攻
教授	篠原 知子	一般科目	専攻科 創造工学専攻
教授	田村 健治	一般科目	専攻科 創造工学専攻
教授	長森 清	一般科目	専攻科 創造工学専攻
教授	古川 浩洋	一般科目	
教授	山岸 弘幸	一般科目	専攻科 創造工学専攻
准教授	岩田 修一	一般科目	専攻科 創造工学専攻
准教授	岡島 由以子	一般科目	専攻科 創造工学専攻
准教授	執行 洋子	一般科目	専攻科 創造工学専攻
准教授	島田 佑一	一般科目	専攻科 創造工学専攻
准教授	広瀬 養朗	一般科目	専攻科 創造工学専攻
准教授	福永 堅吾	一般科目	専攻科 創造工学専攻
准教授	宮田 航平	一般科目	専攻科 創造工学専攻
助教	朝倉 横人	一般科目	専攻科 創造工学専攻
助教	石村 広明	一般科目	
助教	福田 浩之	一般科目	専攻科 創造工学専攻
助教	村田 知瞭	一般科目	専攻科 創造工学専攻
助教	渡邊 南	一般科目	
教授	伊藤 幸弘	機械システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	稲村 栄次郎	機械システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	工藤 正樹	機械システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	栗田 勝実	機械システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	齋藤 博史	機械システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	長谷川 収	機械システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	松澤 和夫	機械システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	吉田 政弘	機械システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
准教授	君塚 政文	機械システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
助教	小柏 悠太郎	機械システム工学コース	
教授	大野 学	A I スマート工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	嶋崎 守	A I スマート工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	富永 一利	A I スマート工学コース	
教授	吉田 和樹	A I スマート工学コース	専攻科 創造工学専攻
准教授	浅川 澄人	A I スマート工学コース	専攻科 創造工学専攻
准教授	伊藤 敦	A I スマート工学コース	専攻科 創造工学専攻
准教授	伊藤 聡史	A I スマート工学コース	専攻科 創造工学専攻
准教授	佐藤 孝治	A I スマート工学コース	
准教授	横井 健	A I スマート工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	石橋 正基	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	花沢 栄基	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	曹 梅芬	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	山本 哲也	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース	専攻科 創造工学専攻
准教授	阿部 晃大	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース	専攻科 創造工学専攻
准教授	石崎 明男	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース	
准教授	稲毛 契	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース	専攻科 創造工学専攻
准教授	川崎 憲広	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース	専攻科 創造工学専攻
准教授	相良 拓也	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース	専攻科 創造工学専攻
准教授	宮田 尚起	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース	専攻科 創造工学専攻
助教	磯山 拓都	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	岩田 満	情報システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	黒木 啓之	情報システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	小早川 倫広	情報システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	小林 弘幸	情報システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	佐藤 喬	情報システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
教授	知念 賢一	情報システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
准教授	田中 寛	情報システム工学コース	専攻科 創造工学専攻
助教	大塚 亜未	情報システム工学コース	

ものづくり工学科

荒川キャンパス

職	氏 名	本科教育コース（本務）		専攻科（兼務）	
教 授	乾 展 子	たのへんし学科	一般科目	専攻科	創造工学専攻
教 授	門 多 嘉 人		一般科目		
教 授	齋 藤 純 一		一般科目	専攻科	創造工学専攻
教 授	高 橋 龍 也		一般科目		
教 授	田 中 淳		一般科目	専攻科	創造工学専攻
教 授	永 井 誠		一般科目	専攻科	創造工学専攻
教 授	原 田 洋 一 郎		一般科目	専攻科	創造工学専攻
准教授	大 古 田 隆		一般科目	専攻科	創造工学専攻
准教授	川 崎 雄 貴		一般科目		
准教授	藏 本 武 志		一般科目		
准教授	河 野 光 将		一般科目	専攻科	創造工学専攻
准教授	坂 本 宗 司		一般科目		
准教授	竹 居 賢 治		一般科目		
准教授	豊 島 雅 幸		一般科目	専攻科	創造工学専攻
准教授	藤 吉 大 介		一般科目	専攻科	創造工学専攻
准教授	村 井 宗 二 郎		一般科目		
准教授	矢 吹 康 浩		一般科目		
准教授	吉 田 健 一		一般科目		
助 教	臼 井 智		一般科目		
助 教	小 林 雄 大		一般科目	専攻科	創造工学専攻
教 授	鈴 木 達 夫		情報通信工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	高 野 邦 彦		情報通信工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	山 本 昇 志		情報通信工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	若 林 良 二		情報通信工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	設 樂 勇		情報通信工学コース		
准教授	高 崎 和 之		情報通信工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	高 田 拓		情報通信工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	平 野 敏 行		情報通信工学コース		
准教授	山 田 美 帆		情報通信工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	渡 邊 ひ ろ し		情報通信工学コース		
教 授	大 賀 貴 久		ロボット工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	笠 原 美 左 和		ロボット工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	鈴 木 拓 雄		ロボット工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	田 村 恵 万		ロボット工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	堀 滋 樹		ロボット工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	加 藤 航 甫		ロボット工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	喜 多 村 拓		ロボット工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	瀬 山 夏 彦		ロボット工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	横 井 元 治		ロボット工学コース		
助 教	相 樂 勝 裕		ロボット工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	小 出 輝 明		航空宇宙工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	小 林 茂 己		航空宇宙工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	宮 野 智 行		航空宇宙工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	宇 田 川 真 介		航空宇宙工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	草 谷 大 郎		航空宇宙工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	高 山 和 士		航空宇宙工学コース		
准教授	諏 訪 正 典		航空宇宙工学コース		
准教授	真 志 取 秀 人		航空宇宙工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	山 口 剛 志		航空宇宙工学コース		
助 教	廣 瀬 裕 介		航空宇宙工学コース		
教 授	杉 本 聖 一		医療福祉工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	田 宮 高 信		医療福祉工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	富 田 宏 貴		医療福祉工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	福 田 恵 子		医療福祉工学コース	専攻科	創造工学専攻
教 授	星 善 光		医療福祉工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	青 代 敏 行		医療福祉工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	後 藤 和 彦		医療福祉工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	柴 田 芳 幸		医療福祉工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	古 屋 友 和		医療福祉工学コース	専攻科	創造工学専攻
准教授	吉 田 嵩		医療福祉工学コース	専攻科	創造工学専攻

非常勤講師一覧

品川キャンパス

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
青 木 立	奥 澤 友 菜	澤 奏 子	飛 松 弦	松 本 響
阿 部 航 汰	梶 谷 眞 衣	塩 満 栄 司	長 尾 明 美	三 浦 倫 正
阿 部 毅 之	加 藤 友 規	浜 木 英 潔	仲 田 尚 央	三 上 隼 人
飯 塚 颯 見	兼 重 仁	清 水 雅 哉	長 屋 未 来	三 隅 雅 彦
飯 室 肇	川 崎 隆 哉	下 田 悠 真	中 山 健	道 脇 元 紀
池 田 育 子	川 野 真 樹 子	蕭 明 禮	成 澤 哲 也	皆 川 和 大
石 田 淳 一	菅 野 公 景	鈴 木 清 一 朗	野 瀬 寿 樹	メルディス グレアム アラン
伊 藤 秀 明	北 島 薫	鈴 木 望 夢	芳 賀 政 伸	八 木 史 江
岩 本 貢	北 原 直 人	須 能 千 春	羽 澤 海 恕	柳 川 慶 一
上 島 光 浩	岸 垣 暢 浩	関 英 一	平 井 志 郎	柳 谷 亮 彦
牛 山 太 陽	清 住 空 樹	添 田 拓 巳	深 津 拡 也	山 本 浩 史
榎本(松本)真俊	工 藤 嘉 晃	高 野 光 男	深 野 あづさ	吉 田 聖 美
エバンス ガリー	グレイス イアンレナード	田 口 結 子	藤 野 俊 和	吉 原 美 響
大 川 典 男	小 宮 希 流	竹 迫 良 範	古 野 誠 裕	渡 辺 伸 宏
大 野 浩 之	齋 藤(藤田)文	竹 中 健 祐	増 田 裕 太	
大 保 勇 人	坂 本 竜 基	田 村 奏 天	松 井 佳 吾	
大 谷 哲	笹 野 祐 輔	近 成 秋 穂	松 岡 淳 子	
小 川 広	佐 藤 真 衣	遠 山 義 和	松 嶋 柚 希	

荒川キャンパス

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
青 木 拓 郎	金 井 伸	三 林 洋 介	原 蘭 迪 子	望 月 尊 仁
浅 井 紀 久 夫	亀 井 利 久	塩 島 由 紀 子	久 森 紀 之	森 由 美 子
阿 部 賢 一	川 口 俊 太 朗	白 井 伴 和	平 野 利 幸	山 岸 勝 明
阿 部 峻 靖	菊 地 謙	進 藤 卓 也	福 原 早 希	山 口 郁 博
荒 木 康 太	木 城 哲 治	スウィニー 久 美 子	藤 川 卓 也	山 田 裕 一
安 藤 類 央	北 夏 子	田 上 慎	藤 野 裕 之	山 本 徹
石 垣 雄 太 朗	木 村 貴 幸	瀧 澤 駿	藤 原 豊 樹	山 本 靖 樹
板 倉 悠 真	草 野 湧 貴	田 口 宏 明	別 府 俊 幸	弓 削 一 憲
稲 葉 亜 貴 子	久 保 光 徳	田 代 裕 子	前 田 祐 佳	横 澤 宏 一
井 上(野間)和美	糸 川 岳 勤	田 中 季 夫	横 野 汐 莉	横 山 俊 幸
上 村 光 宏	グレイス イアンレナード	田 村 昌 一	松 原 光 昭	吉 川 万 美
生 方 俊 典	小 久 保 優	千 葉 晃 司	三 ツ 石 直 人	吉 田 慧 一 郎
遠 藤 信 一	小 高 晃	鄭 宗 秀	蓑 手 智 紀	吉 原 美 響
エバンス ガリー	小 林 俊 輝	露 木 章 史	宮 川 睦 巳	若 林 裕 介
呉 民 愛	小 林 宏 気	永 野 隆 敏	三 宅 弘 晃	和 田 倫 明
太 田 匡 則	小 室 貴 紀	中 村 公 一	宮 坂 明 宏	渡 邊 力 夫
大 田 黒 紘 之	小 室 信 喜	成 澤 哲 也	宮 田 洋 一 郎	
大 鳥 浩 史	齋 藤 敏 治	西 澤 正 己	三 輪 賢 一 郎	
大 平 早 紀	佐 藤 浩 久	波 多 江 茂 樹	武 藤 美 咲	
風 間 道 子	佐 藤 裕 治	林 等	メルディス グレアム アラン	

※5月1日時点で確定している後期のみ非常勤講師も含む。

歴代校長

歴代	氏 名	就任日	歴代	氏 名	就任日
東京都立工業高等専門学校			東京都立航空工業高等専門学校		
初代	下 坂 實	昭和 37 年 4 月 1 日	初代	徳 丸 芳 男	昭和 37 年 4 月 1 日
2代	高 本 信次郎	昭和 45 年 4 月 1 日	2代	辻 田 正 巳	昭和 40 年 4 月 1 日
3代	八 田 龍太郎	昭和 48 年 4 月 1 日	校長代理	奥 村 正 夫	昭和 47 年 4 月 1 日
4代	杉 原 猪佐雄	昭和 54 年 4 月 1 日	4代	高 月 龍 男	昭和 47 年 4 月 1 日
5代	加 藤 宏	昭和 63 年 4 月 1 日	5代	佐 野 元	昭和 57 年 4 月 1 日
6代	飛 田 満 彦	平成 3 年 4 月 1 日	6代	米 満 澄	昭和 63 年 4 月 1 日
7代	吉 川 幸 宏	平成 6 年 4 月 1 日	7代	布 施 正	平成 3 年 4 月 1 日
8代	坂 本 守 義	平成 11 年 4 月 1 日	8代	山 口 重 雄	平成 5 年 4 月 1 日
9代	西 村 尚	平成 14 年 4 月 1 日	9代	久 米 潔	平成 8 年 4 月 1 日
10代	藤 田 安 彦	平成 16 年 4 月 1 日	10代	羽 生 隆 昭	平成 10 年 4 月 1 日
11代	荒 金 善 裕	平成 20 年 4 月 1 日	11代	久 保 謙 一	平成 12 年 4 月 1 日
			12代	島 田 一 雄	平成 14 年 4 月 1 日
			13代	長 浜 邦 雄	平成 17 年 4 月 1 日
			14代	荒 金 善 裕	平成 20 年 4 月 1 日
東京都立産業技術高等専門学校					
初代	藤 田 安 彦	平成 18 年 4 月 1 日			
2代	荒 金 善 裕	平成 20 年 4 月 1 日			
3代	田 原 正 夫	平成 26 年 4 月 1 日			
4代	渡 辺 和 人	令和 2 年 4 月 1 日			
5代	吉 澤 昌 純	令和 4 年 4 月 1 日			
6代	柴 崎 年 彦	令和 8 年 4 月 1 日			

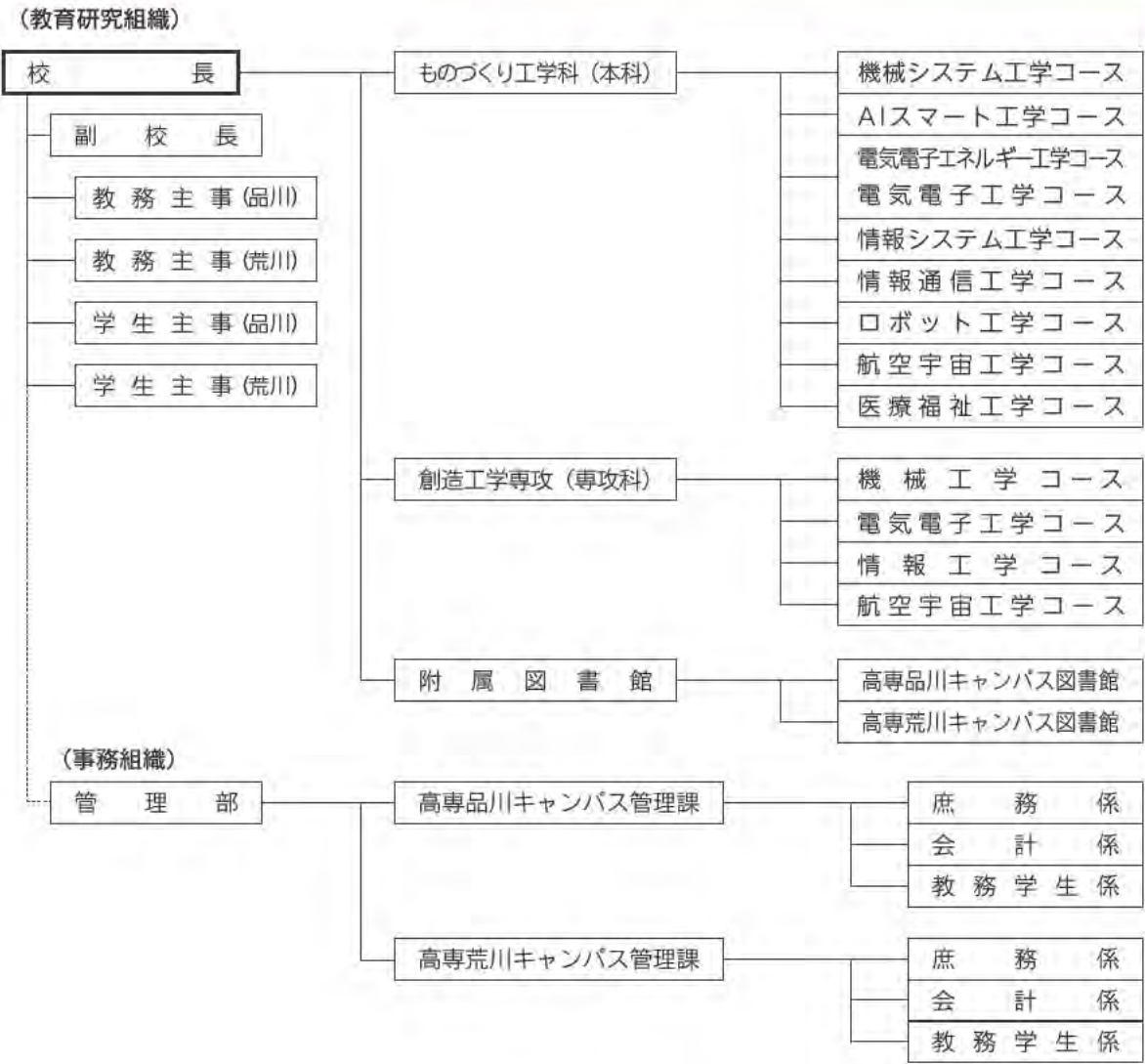
教職員数

教職員 2026年 5 月 1 日在籍者

	教 員 職 員						事 務 職 員 等														
							都 派 遣					法 人									
職 種 別	校 長	副 校 長	教 授	准 教 授	助 教	非 常 勤 講 師	管 理 部 長	管 理 課 長	係 長	主 任	主 事	管 理 課 長	正 規 職 員 係 長	正 規 職 員 主 任	正 規 職 員 主 事	正 規 職 員 司 書	正 規 職 員 看 護 師	特 定 任 用 等	非 常 勤 契 約 事 務	非 常 勤 契 約 司 書	非 常 勤 契 約 技 術
現 員	1	1	54	52	12	166	1	0	1	0	0	2	8	7	24	2	2	1	12	2	11
品川キャンパス 荒川キャンパス	1	1	30	20	8	74	1	0	0	0	0	1	6	5	14	1	1	1	8	1	5
			24	32	4	92		0	1	0	0	1	2	2	10	1	1	0	4	1	6

※両キャンパスで勤務している非常勤講師は品川キャンパスに計上

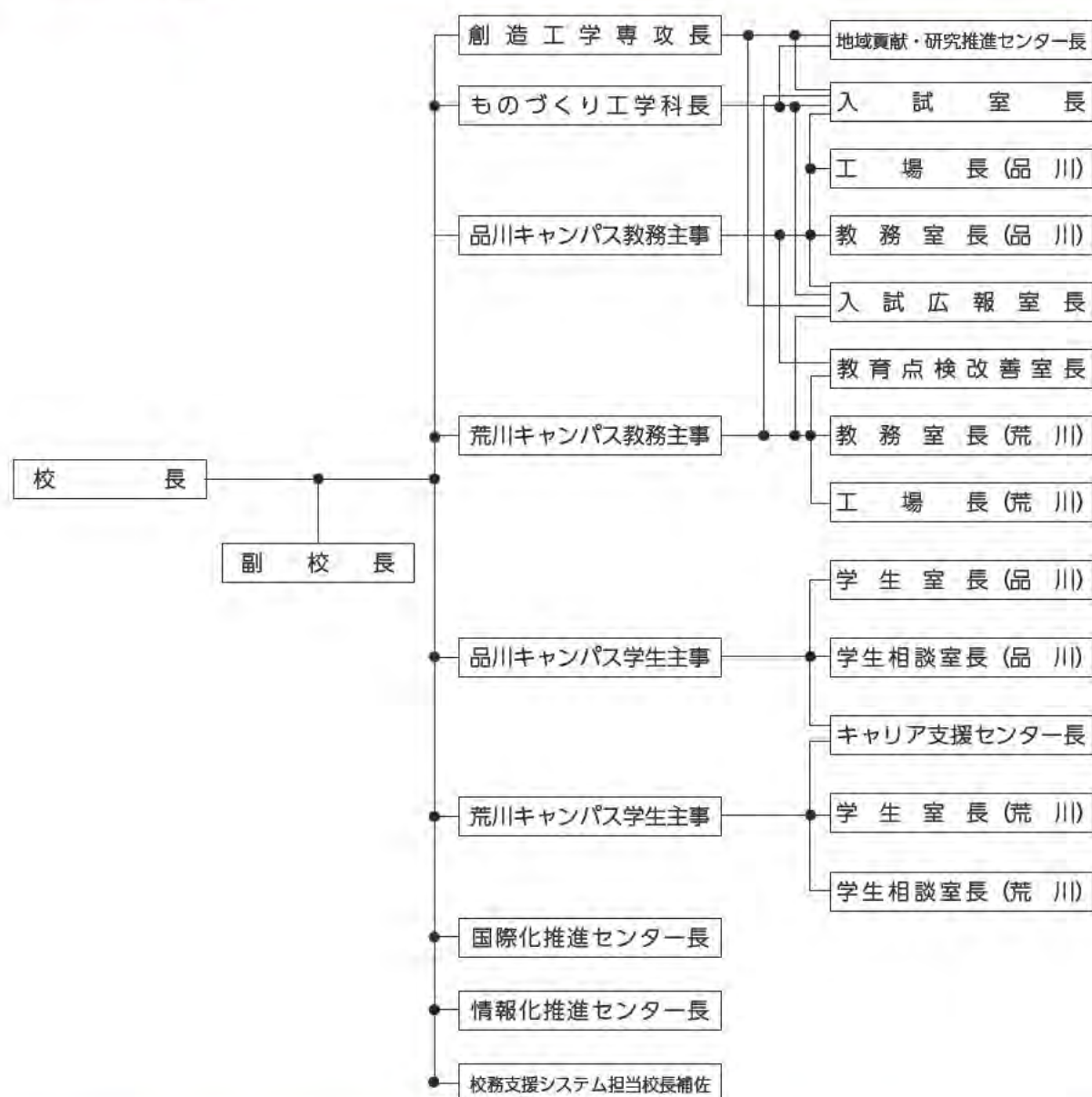
組 織 図



教育管理職		コース長等			事務組織	
校 長	柴崎 年彦	品川 キャンパス	機械システム工学コース長	稲村栄次郎	管理部長	
副 校 長	吉村 拓巳		AI スマート工学コース長	大野 学	品川 キャンパス	管 理 課 長
教 務 主 事 (品川)	篠原 知子		電気電子エネルギー工学コース長	石橋 正基		庶 務 係 長
教 務 主 事 (荒川)	田村 恵万		電気電子工学コース長	黒木 啓之		会 計 係 長
学 生 主 事 (品川)	伊藤 幸弘		情報システム工学コース長	田村 健治		教 務 学 生 係 長
学 生 主 事 (荒川)	門多 嘉人	荒川 キャンパス	一 般 科 長	高野 邦彦		企画調査担当係長
ものづくり工学科長	小林 弘幸		情報通信工学コース長	鈴木 拓雄	荒川 キャンパス	入試・広報担当係長
創造工学専攻長	田村 恵万		ロボット工学コース長	小林 茂己		学務企画・国際 化推進担当係長
附属図書館長	吉村 拓巳		航空宇宙工学コース長	福田 恵子		管 理 課 長
			医療福祉工学コース長	高橋 龍也		庶 務 係 長
			一 般 科 長			会 計 係 長
						教 務 学 生 係 長

(2026年5月1日現在)

校務執行体制



校長補佐・センター長		室 長		共同利用施設の長等	
キャリア支援センター長 (キャリア支援担当校長補佐)	田中 淳	教 務 室 長 (品川)	佐藤 喬	総 合 工 場 長 (品川)	齋藤 博史
国際化推進センター長 (国際化推進支援担当校長補佐)	長森 清	教 務 室 長 (荒川)	大貫 貴久	総 合 工 場 長 (荒川)	小出 輝明
地域貢献・研究推進 セ ン タ ー 長	長谷川 収	学 生 室 長 (品川)	岩田 修一	未 来 工 房 長 (品川)	栗田 勝実
情報化推進センター長 (情報化推進担当校長補佐)	星 善光	学 生 室 長 (荒川)	乾 展子	未 来 工 房 長 (荒川)	柴田 芳幸
教育点検改善室長	小早川倫広	学生相談室長 (品川)	富永 一利	汐 梨 ホ ー ル 長	高橋 龍也
校務支援システム担当 校 長 補 佐	小林 弘幸	学生相談室長 (荒川)	大古田 隆	科学技術展示館長	小林 茂己
		入 試 室 長	齋藤 博史	(2026年5月1日現在)	
		入 試 広 報 室 長	宇田川真介		

教育研究活動

教育改善研究費による研究活動実績

教育改善研究費は、高専の教育水準や教育技術の向上を目的とし、各コース等における教育目標を達成するために配分する研究費です。

(単位：千円)

	2025年	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
金 額	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000

特定課題研究費による研究活動実績

特定課題研究費は、高専の設置目的や教育目標などの達成のため、以下の3つの研究課題から、公募により、教員個人又はグループに対して競争的、傾斜的に配分する研究費です。

1 重点課題研究

東京都が抱える課題の解決につながる社会科学的、工学的な研究

(単位：千円)

	2025年	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
件 数	18	11	11	12	22	16
金 額	8,200	8,200	8,200	8,200	8,700	12,700

2 スタートアップ研究

着任1年目から3年目までの教員が、本校における教育・研究活動をスタートさせるにあたり、その基盤となる研究

(単位：千円)

	2025年	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
件 数	16	14	19	14	11	9
金 額	8,800	5,400	8,800	7,000	6,100	4,200

3 教育課題研究

本校の教育課題を解決するためのプロジェクト型教育研究（コース再編、医工連携の推進、国際的な教育連携推進等）

(単位：千円)

	2025年	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
件 数	19	13	12	12	23	12
金 額	8,000	11,400	8,000	9,800	10,200	8,100

外部資金による研究活動実績

1 科学研究費助成事業

学術研究の発展を目的として、文部科学省および日本学術振興会から交付される助成金 (単位：千円)

	2025年	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
件数	12	10	13	18	20	15
金額	13,330	10,565	12,365	18,900	21,510	22,100

※ 他大学から本校教員への分担金を含まず

※ 新規採択件数、採択金額（本校教員から他大学への分担金は含む）

2 産学共同研究

企業等から研究費を受入れ、本校教員と企業等の研究者が共同で行う研究 (単位：千円)

	2025年	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
件数	6	7	7	9	12	9
金額	5,447	12,713	4,242	4,761	7,431	4,066

3 受託研究

企業等から受託を受けて、委託者の費用負担で行われる研究（提案公募研究含む） (単位：千円)

	2025年	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
件数	1	0	1	3	2	2
金額	200	0	400	924	1,817	2,350

4 特定研究寄附金

企業等からの研究の奨励を目的とした寄附金 (単位：千円)

	2025年	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
件数	4	7	6	6	6	7
金額	2,470	4,550	4,400	6,750	4,326	12,926

5 その他（学術相談、都連携以外の受託事業と科研費補助金以外の補助金）

(単位：千円)

	2025年	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
件数	6	2	6	6	4	11
金額	16,462	867	2,988	2,378	1,375	4,903

2025

分類	講 座 名	対 象	期 間	キャンパス	
未来エンジニア	小中学生のための楽しいロボット講座	小学 5,6 年生、中学生	8/9,10	品川	19 人
	竹とんぼを作って飛ばしてみよう	小学 5,6 年生 中学 1 年生	8/10	品川	4 人
	ペットボトルロケットを作って遠くへ飛ばすチャレンジ をしよう	小学生	8/23	品川	15 人
	ペットボトルロケットを作って遠くへ飛ばすチャレンジをしよう	小学生	8/24	品川	15 人
	コロポとセンサを組み合わせたロボット制御プログラミング	中学生	9/20	品川	6 人
	ドローンプログラミングチャレンジ	中学生	10/12	品川	16 人
	LEGO によるロボットプログラミング体験	小学 4～6 年生、中学生	10/18	品川	9 人
	魔法のパイプ? ヒートパイプ	中学生	11/3	品川	6 人
	体から出てくる電気を見てみよう!	中学生	7/27	荒川	3 人
	高専数学の学びをのぞいてみよう	中学生 (主に 3 年生)	7/27	荒川	12 人
	ペットボトルロケットを作って思いっきり遠くまで飛ばそう!	小学生	8/9 10:00～12:00	荒川	10 人
	ペットボトルロケットを作って思いっきり遠くまで飛ばそう!	小学生	8/9 13:00～15:00	荒川	9 人
	「論理的」に考え、書くための技術	中学生	8/9,10	荒川	9 人
	マイコンを使って電子ルーレットを作ろう!	中学生	8/10	荒川	9 人
	親子で学ぶ最新もののづくり実習 (3D プリンタ編)	小学 5,6 年生、中学生	8/16	荒川	8 人
	電池の要らない不思議なラジオを作ろう!	中学生	8/23	荒川	10 人
	"Flying Objects (飛ぶモノ)" について学び、英語で楽しく工作	小学 4～6 年生	8/25	荒川	12 人
	オリジナルモータを作って電気と磁力を理解しよう	小学 5,6 年生、中学生	8/29	荒川	8 人
	ロボットを動かそう	小学 5,6 年生、中学生	8/30	荒川	10 人
	折り紙の工学と造形 ～封筒おりがみに挑戦!～	小学 4～6 年生	9/23	荒川	19 人
ものづくり	飛行機の構造を学ぼう!	中学生	10/18	荒川	10 人
	自己 P R に役立つ理系中学生のための自分発見講座	中学 3 年生	11/9	荒川	7 人
ものづくり	Raspberry Pi を使った LINUX によるプログラム・ネットワーク入門	一般 (中学生以上)・技術者	8/16,17	品川	16 人
生涯学習	中学生のための小論文講座	中学 2,3 年生	8/9,10	品川	20 人
	初めてのベースボール型スポーツ ～Baseball5 体験講座～	小中学生	8/11	品川	6 人
	TOEIC リスニング講座 (目標スコア 600～650)	一般 (社会人)	8/16,17,23,24	品川	5 人
	社長になろう! 親子で学ぼう! 未来の起業家集まれ!	中学生	8/22	品川	2 人
	分かる! ビジュアル科学	一般	8/31	品川	10 人
	英検で学ぶ基礎強化英語	中学生	8/20,21,22	荒川	10 人
	footism ～ふっといずむ～	小中学生	8/25	荒川	6 人
	英語で Rakugo (落語) に挑戦しよう!	小学 5,6 年生、中学生	9/20	荒川	3 人
育技術者	機械加工・初心者向け体験実習 (切削加工・汎用フライス盤作業)	技術者	11/29	品川	5 人
	CCNA 合格に向けたルータ初心者講座	一般・技術者	12/13	品川	3 人
	福祉機器に関するものづくり講座	一般・技術者	11/16	荒川	4 人
合 計					316 人

2 共催講座等

分類	講 座 名	対 象	期 間	キャンパス	受講者数	共済等相手
未来エンジニア	秋のロボットセミナー	大田区内在住 小学 4 年生～中学 2 年生	10/19	品川	18 人	大田区工業連合会
	少年少女体験教室「大きな紙ヒコーキを作って飛ばそう」	荒川区内在住・在学の小学生	8/23	荒川	11 人	荒川区
	第 23 回中学生ロボットコンテスト	荒川区・北区内に在住・在学 中学 1 年生～中学 2 年生	12/26,27 1/10,11,18	荒川	20 人	荒川区・北区

3 受託講座

分類	講 座 名	対 象	期 間	キャンパス	受講者数	委 託 元
技 術 者 育 成	若手技術者支援のための講座（若手技術者向け集合教育） 18:30 ～ 20:30					
	①「機械設計のための基礎」 30H	中小企業の若手技術者	9/1～10/17 （全 15 回）	品川	12 人	品川区 （公財）大田区 産業振興協会
	②「工業材料の基礎」 12H		10/21～11/10 （全 6 回）		10 人	
	③「加工と測定の基礎」 12H		11/12～11/28 （全 6 回）		2 人	
	④「ICTの基礎」 12H		11/7～12/12 （全 6 回）		5 人	
	⑤「電気回路の基礎」 16H		9/24～10/21 （全 8 回）		10 人	
	⑥「シーケンス制御の基礎」 20H		10/23～11/25 （全 10 回）		10 人	
	若手技術者支援のための出前講座（講師が大田区内の企業に出向き、企業の希望に沿った講義を行う） 2 時間／ 1 回 ※申し込みがなかったため実績なし					
「工業材料の基礎」	大田区内の企業	11/18、11/25 （全 2 回）	品川	両日とも 18 人	（公財）大田区産業振興協会	

【分類】

未来エンジニア育成講座：小中学生に対する科学・技術への関心の惹起
 技術者育成講座：地元中小企業技術者等に対するリカレント教育
 生涯学習、生涯学習（ものづくり）講座：生涯学習の機会の提供

4 イベントへの参加・開催

科学技術週間 東京都特別行事「Tokyo ふしぎ祭エンス 2025」に出展
 東京都主催 スタートアップカンファレンス「SusHi Tech TOKYO2025」に出展
 品川区教育委員会後援「ものづくりテクノスタジオ」を初開催
 大田区・公益財団法人大田区産業振興協会主催「第15回おた研究・開発フェア」に出展

● 体育施設開放事業 2025年度実績

品川 キャンパス	開 放 施 設 名	グラウンド	テニスコート	体育館	合 計
	開 放 種 目	サッカー			
	延べ利用団体数	2	0	0	2
	利用者延べ人数	2,500	0	0	2,500
	開 放 日 数 合 計	13	0	0	13

荒川 キャンパス	開 放 施 設 名	グラウンド	テニスコート	合 計
	開 放 種 目	サッカー、軟式野球 グラウンドゴルフ、 硬式野球	ソフトテニス	
	延べ利用団体数	4	1	5
	利用者延べ人数	927	363	1,290
	開 放 日 数 合 計	15	15	30

主な取組・学生支援の実績

● 国際化推進プログラムの参加状況 (人)

(1) グローバルエンジニア育成プログラム(2014年～2016年まで)

	定員	応募者数	参加人数	渡航先
2014年	40	100	40	米国シアトル
2015年	40	117	40	米国シアトル
2016年	40	114	40	米国シアトル

(2) 海外インターンシップ(2014年～2016年まで)

	定員	応募者数	参加人数	渡航先
2014年	10	13	10	シンガポール
2015年	10	14	10	シンガポール
2016年	10	20	10	シンガポール

(3) グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)(2014年～)

実施年	定 員		応募者数	参加人数	渡航先
2014年	16		25	15	シンガポール
2015年	16		18	16	シンガポール
2016年	16		33	15	シンガポール
2017年	24		36	24	シンガポール
2018年	推薦	24	15	10	シンガポール
	一般		31	14	
2019年	推薦	24	19	13	シンガポール
	一般		29	11	
2020年	中止				
2021年	推薦	30	6	4	—
	一般		13	10	
2022年	推薦	30	8	8	シンガポール
	一般		5	5	
2023年	推薦	30	20	10	シンガポール
	一般		29	20	
2024年	推薦	30	19	10	シンガポール
	一般		42	20	
2025年	推薦	30	20	10	シンガポール
	一般		34	20	

(4) インターナショナル・エデュケーション・プログラム(IEP)(2018年～)

	定員	応募者数	参加人数	渡航先
2018年	40	91	40	米国シアトル
2019年	40	76	40	米国シアトル
2020年	中止			
2021年	40	40	38	—
2022年	40	38	38	—
2023年	20	86	20	米国シアトル
2024年	40	133	40	米国シアトル
2025年	40	123	40	米国シアトル

※2020年は新型コロナウイルス感染症により中止

※2021年、2022年度は新型コロナウイルス感染症により渡航せずにオンラインで現地と交流

※2018年よりインターナショナル・エデュケーション・プログラム参加者からの推薦制度を実施

※2020年は新型コロナウイルス感染症により中止

※2021年は新型コロナウイルス感染症により渡航せずにオンラインで現地と交流

※2024年より推薦と一般を同日選考にしたため、一般の応募者数に推薦応募者数も含む

● 情報化の推進状況

2015年度	
情報センター端末 学内ネットワークの更新	・情報演習端末を更新すると共に、学内の基幹接続を 10 Gbps に、末端接続を 1 Gbps に増速 ・無線 LAN 環境を増強し、学内のほとんどの箇所でネットワーク接続が可能に
GoogleApps の導入	・学生のメールシステムとして Google Apps for Education を導入 (学外でのメール送受信を実現)
校務支援システムの拡充	・学生による科目到達度の自己評価登録機能を追加 ・科目ポートフォリオの機能を追加、卒業研究・特別研究における活動時間・活動内容の記録と教員によるフィードバックを実現
学術情報ネットワーク更新	・学術情報ネットワークの更新に伴い、本校の学外接続を SINET 5 に移行
2016年度	
ネットワーク利用環境の整備	・無線 LAN アクセスポイントを増強 ・品川キャンパスにおいて G Suite Classroom の試行を開始
2017年度	
ネットワーク利用環境の整備	・両キャンパスで G Suite Classroom を使用開始 ・Google Forms を用いて学生の ICT 環境利用度・満足度調査を実施
2018年度	
ネットワーク利用環境の整備	・学内でのみ提供していたサイネージ情報を学内ネットワーク経由で学生の個人端末で閲覧可能に
演習室の利用促進	・放課後の学生の利用促進のため、情報処理演習室を SA を配置
2019年度	
ネットワーク利用環境の整備	・2020 年度利用環境リプレイスに向けての検討実施
2020年度	
ネットワーク利用環境の整備	・荒川・品川両キャンパスのネットワーク機器リプレイス実施
2021年度	
学術情報ネットワーク更新	・本校の学外接続を SINET6 に移行し、対外接続を 10 Gbps に増強
遠隔授業の整備	・機器等の整備により Web 会議を推進
2022年度	
一部サーバ機能のクラウド化	・アカウント管理のシステムをオンプレミスからクラウドへ移行
2024年度	
学生ポータルへの検討	・デジタルサイネージに代わる学生向けポータルの機能・運用について検討
2025年度	
学生ポータルの運用開始	・2026 年度利用環境リプレイスに向けての検討実施
品川 CP の BYOD 化	・2026 年度品川キャンパス BYOD 化に向けての検討実施
2026年度	
学内情報環境の更新	

● 学生相談室 学生相談件数（延べ件数）

		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	その他	計	合計
2021年度	品川	61	68	95	70	64	38	44	440	655
	荒川	46	25	72	13	23	0	36	215	
2022年度	品川	30	83	62	48	87	16	48	374	585
	荒川	46	44	21	24	23	6	47	211	
2023年度	品川	43	93	60	48	75	22	18	359	572
	荒川	49	35	25	19	35	11	39	213	
2024年度	品川	18	81	60	17	63	3	12	254	452
	荒川	41	28	22	12	47	0	48	198	
2025年度	品川	46	51	36	26	30	15	75	279	446
	荒川	41	23	22	27	16	25	13	167	

その他：保護者等

施設情報

● 2026年度 科学技術展示館一般公開予定日

公開時間：午前10時～午後3時

4月15日（水）	ヘリコプターの日
5月18日（月）	世界情報社会・電気通信日（5月17日の繰り下げ実施）
6月1日（月）	電波の日
9月18日（金）	空の日（9月20日の繰り上げ実施）
10月14日（水）	鉄道の日
12月1日（火）	鉄の日
12月17日（木）	ライト兄弟初飛行の日
3月25日（木）	電気記念日



● 図書館蔵書数（2026年5月1日現在）

（単位：冊）

	分類	品川キャンパス	荒川キャンパス
0	総記	5,046	4,974
1	哲学	1,730	2,106
2	歴史	4,212	5,057
3	社会科学	5,993	5,712
4	自然科学	11,358	10,791
5	工学	21,273	20,898
6	産業	839	917
7	芸術	3,412	3,608
8	語学	3,589	2,812
9	文学	15,239	10,875
なし	その他	4,655	3,996
合計		77,346	71,746
内洋書数		4,224	3,156

開館時間
品川キャンパス／平日 8:30～19:00
荒川キャンパス／平日 9:00～18:00

面積／座席数
品川キャンパス／面積 1,020㎡ 座席数 86席
荒川キャンパス／面積 1,100㎡ 座席数 94席



施設の概要・学校配置図

品川キャンパス

● 施設の概要

1 土地

校地総面積	37,134.15㎡
-------	------------

2 建物

	延べ床面積
校舎	29,904.70㎡
体育館	2,520.55㎡
体育棟	516.69㎡
プール棟	1,197.60㎡
計	34,139.54㎡



3 建築概要

規 模	地上7階	塔屋1階
-----	------	------

構 造	校舎棟	鉄骨鉄筋コンクリート造
	体育館	鉄骨鉄筋コンクリート造
	体育棟	鉄筋コンクリート造
	プール棟	鉄筋コンクリート造

● 学校配置図（品川キャンパス）



荒川キャンパス

1 土地

校地総面積	48,370.10㎡
-------	------------

2 建物

	延べ床面積
本館	21,325.83㎡
体育館	3,271.79㎡
実験実習館	4,986.66㎡
科学技術展示館	1,235.27㎡
航空実習館	612.69㎡
その他	64.00㎡
計	31,496.24㎡

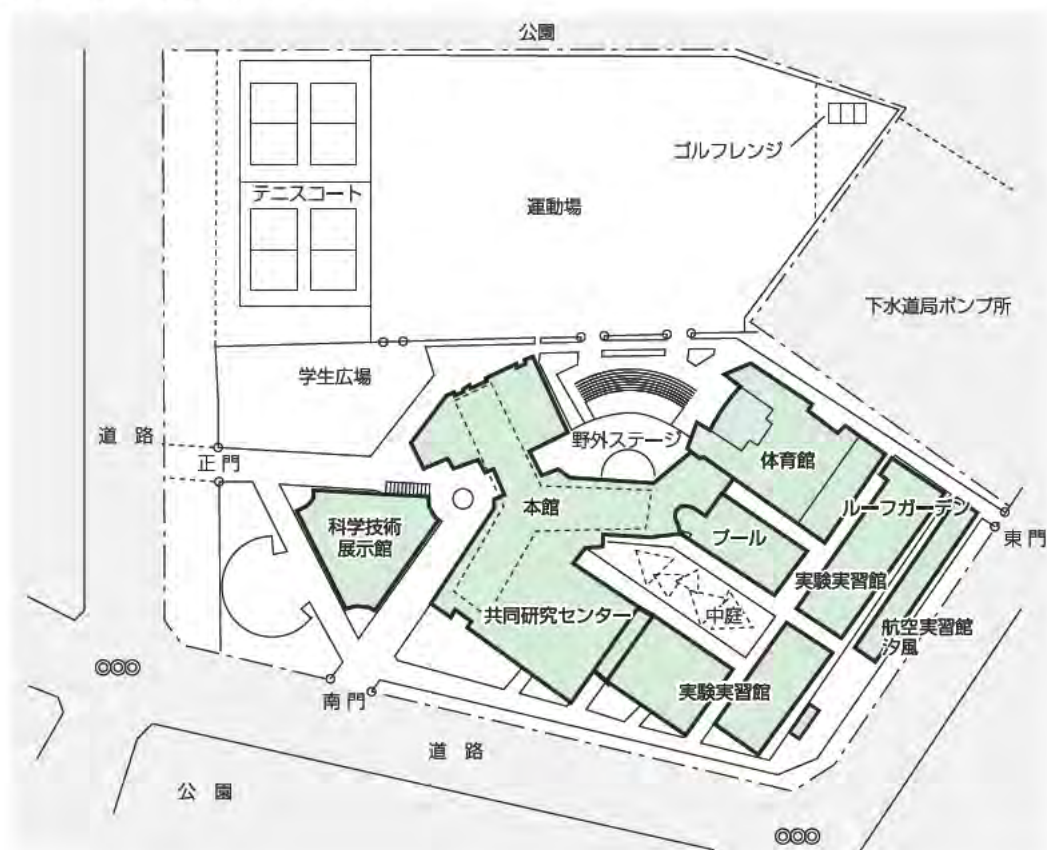


3 建築概要

規模	地上9階	塔屋1階
----	------	------

構造	本館	鉄骨鉄筋コンクリート造（多目的ホール屋根：鉄骨造）
	体育館	鉄筋コンクリート造（柔道・小体育館：鉄骨鉄筋コンクリート造） （アリーナ屋根：鉄骨造）
	実験実習館	鉄筋コンクリート造（プール下部：鉄骨鉄筋コンクリート造）
	科学技術展示館	鉄筋コンクリート造（屋根：立体トラス構造）
	航空実習館	鉄骨造

● 学校配置図（荒川キャンパス）



沿革

東京都立工業高等専門学校 (品川キャンパス)

昭和10年 4月 1日	東京府立電機工業学校開校
昭和18年 7月 1日	東京都立電機工業学校へ改称
昭和22年 4月 1日	併設中学校開校
昭和23年 4月 1日	東京都立鮫洲新制高等学校へ改称
昭和24年 3月31日	併設中学校閉校
昭和25年 1月26日	東京都立大学付属工業高等学校へ改称
昭和32年 4月 1日	東京都立工業短期大学付属工業高等学校開校
昭和35年 3月31日	東京都立大学付属工業高等学校閉校
昭和37年 3月31日	東京都立工業短期大学附属工業高等学校閉校
昭和37年 4月 1日	東京都立工業高等専門学校開校 学校教育法の一部改正により、東京都立工業短期大学付属工業高等学校全日制の36年度1、2年生を志望と認定により東京都立工業高等専門学校2、3年に全員編入
昭和41年 2月 1日	電気主任技術者第二種の資格学校として認定(通商産業省告示第577号)
昭和48年 4月 1日	電気工学科1学級増設(2学級)
昭和62年10月24日	創立25周年記念式典挙行
平成2年 3月31日	プール新築、テニスコート改修
平成8年 4月 1日	新学科開設(生産システム工学科、電子情報工学科 各1学級)
平成11年 1月29日	新校舎竣工
平成12年 9月 1日	グラウンド竣工
平成13年 3月30日	体育館棟改修工事竣工
平成13年 5月25日	学科改組・新校舎完成記念事業挙行
平成18年 3月31日	東京都立工業高等専門学校募集停止
平成22年 3月31日	東京都立工業高等専門学校閉校

東京都立工業高等専門学校 (荒川キャンパス)

昭和13年 4月 1日	東京府立航空工業学校開校
昭和18年 7月 1日	東京都立航空工業学校へ改称
昭和21年 2月 7日	東京都立城北工業学校へ改称
昭和22年 4月 1日	併設中学校開校
昭和23年 4月 1日	東京都立城北工業高等学校へ改称
昭和24年 3月31日	城北工業学校並びに併設中学校を閉校
昭和30年 4月 1日	東京都立航空工業高等学校へ改称
昭和37年 4月 1日	東京都立航空工業高等専門学校開校
昭和39年 3月31日	東京都立航空工業高等学校閉校
昭和44年 8月12日	工場棟竣工
昭和45年 8月14日	中校舎竣工
昭和46年 6月23日	北校舎竣工
昭和47年12月21日	体育館竣工
昭和55年 4月 1日	学生食堂開設
昭和62年10月31日	創立25周年記念式典挙行
平成元年 4月 1日	新学科開設
平成3年 3月30日	科学技術展示館竣工
平成4年12月16日	新校舎(本館、実験実習館、体育館)竣工
平成9年 3月31日	グラウンド竣工
平成17年 2月	高等専門学校機関別認証評価(試行的評価)(大学評価・学位授与機構)を受け、概ね良好との評価を得る
平成18年 3月31日	東京都立航空工業高等専門学校募集停止
平成22年 3月31日	東京都立航空工業高等専門学校閉校

平成18年 4月 1日 東京都立産業技術高等専門学校開校

平成18年 4月 1日	東京都立工業高等専門学校と東京都立航空工業高等専門学校を統合・再編し、東京都立産業技術高等専門学校が開校、専攻科設置
平成20年 4月 1日	公立大学法人首都大学東京へ移管
平成25年 3月	大学評価・学位授与機構が実施する高等専門学校機関別認証評価を受審し、機構が定める評価基準を満たしているとの評価結果を受ける
平成25年 5月31日	新たにシンボルマーク、シンボルカラー、スローガンを決定
平成27年 6月 1日	荒川キャンパスのグラウンドを人工芝に整備
平成28年 4月 1日	情報セキュリティ技術者育成プログラム、航空技術者育成プログラムを開設
平成31年 3月29日	航空実習館「汐風」竣工
平成31年 3月	大学評価・学位授与機構が実施する高等専門学校機関別認証評価を受審し、機構が定める評価基準を満たしているとの評価結果を受ける
令和2年 4月 1日	東京都公立大学法人へ名称変更

2026 年度 学校要覧

2026 年 7 月発行

編集・発行 東京都公立大学法人
東京都立産業技術高等専門学校
〒140-0011 東京都品川区東大井一丁目10番40号
電 話 03-3471-6331

印 刷 所 株式会社 マステック



高専品川キャンパス



高専荒川キャンパス



東京都立大学法人
東京都立産業技術高等専門学校
www.metro-cit.ac.jp



高専品川キャンパス
〒140-0011 東京都品川区東大井 1-10-40 TEL 03-3471-6331
FAX 03-3471-6338

高専荒川キャンパス
〒116-8523 東京都荒川区南千住 8-17-1 TEL 03-3801-0145
FAX 03-3801-9898



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。